

## 群れる青、トコロ。

### ◎登場人物

望月 瑠璃子（るりこ） 27歳 望月家の長女。  
望月 藍子（あいこ） 25歳 望月家の次女。

水野 進（すすむ） 29歳 本家である水野家の長男。 瑠璃子たちの従兄弟。  
水野 華（はな） 25歳 水野家の長女。 彼氏あり。  
水野 剛（たかし） 20歳 水野家の次男。 萌の彼氏。

木田 典香（のりか） 29歳 木田家の長女。 水野家の石仏を清掃する。

若井 和美（かずみ） 32歳 水野家と木田家のご近所さん。 1児の母。  
大村 萌（もえ） 18歳 剛の高校時代の後輩で、今の彼女。

### ◎舞台

田舎にある二階建ての旧家。 水野家。  
水野の祖父が建てた家で、今は孫たちだけが住んでいる。

舞台は、家族が集まる座敷。 居間のような使われ方をしている。  
部屋には、テーブルがあるぐらいで、物はほとんどない。  
ただし、天井の一角に、神棚が乗っている木の板が見える。  
上手には、障子を挟んで縁側。 外の見えないところに、大きな石がある。  
二階は男兄弟（進と剛）の部屋で、下手の奥に華の部屋がある。  
下手から出て、階段、その先に台所、台所に勝手口がある。

水野家に嫁いだ母は、幼少期に父の博打好きに嫌気が差し、家を出た。  
その父は7年前に他界し、それ以降は兄弟がこの家を守ってきた。

水野の長女だった瑠璃子と藍子の母は、望月家に嫁いだが、1年前に他界。  
そして、望月の母にとっては、ここが生まれ育った家になる。

0.

部屋の中、進と剛がサイコロゲームに興じている。3個のサイコロは、器にはじかれ、チンチロリンと音を上げ続ける。傍らには、束になった5円玉。勝者にお金が渡る。

しばらくすると、負けている剛がルールに文句を付け始める。これは、いつものことのようにであり、進はどうしたいのか、を問う。ルールは変更されながらも、ゲームは続いて行く。

1.

遠くで、時間を伝える学校のチャイムの音が聞こえる。二人はその音に一瞬反応を見せるが、すぐ気にすることなくゲームを再開すると、縁側から鍋を持った和美が入ってくる。縁側に腰をかける。

和美

よいしょ。

進

ああ。

剛

こんにちは。

二人は、和美を気にしながらも、ゲームを続ける。

和美

好きやねー。それ、別に。

進

たまの休みやろ。

和美

休みやけよ。

進

外で遊び。うちの子たちみたいに。

和美

そんな年やないちゃ。

進

じゃあ、散歩でもしたら？うちのお母さんみたいに。

和美

逆に、そんな年やないちゃ。(ゲーム的に)次、お前ぞ。

剛

剛も。

和美

え、何？

剛

遊びに連れてっっちゃらな。

和美

．．．

剛

愚痴りよったよ、萌ちゃん。

和美

いいやん。別に。

剛

捨てられるよ。

和美

大丈夫ちゃ。

進

わー、自信。

和美

うるせ。邪魔するんなら帰れ。

進

邪魔しとらんやん。

和美

しとるわ。

部屋に上がって来て、ゲームの進行を眺めながら、

和美 お金賭けよん。  
進 当たり前やん。  
和美 こんな昼間っから、背德的やね。  
剛 背徳で。・・・ん？どついう意味？  
和美 財布ないんやけど、うち。  
進 やらんでいいっちゃ。  
和美 (剛に) お金貸してよ。  
剛 いいけど。  
進 子どもがおって、よっぽど背徳やわ。  
剛 どういう意味？  
和美 チンチロやろ？  
進 今日の、チンチロ。  
和美 何、それ。  
進 ルールが違うん。負け出したら、(剛を指差し) すぐゴネるけ。  
剛 ゴネてないっちゃ。  
和美 こら、剛、ルールは守らんと。  
剛 守っとる。  
和美 これはゲームなんやけ。

と、斜向かいの部屋から、黒電話の音が鳴る。

剛 電話。  
進 (ゲームを続け) 華、電話。  
和美 自分で出り。  
進 (ゲームを続け) 華ー。  
華 (外から) 忙しいんやけ。出て。  
和美 (無理やり行かせようと) ほら。  
進 (意地でも動かず) 華ー。  
華 (外から) もう、何なん。

隣の部屋から足音。黒電話の音が消える。

進 よしよし。  
和美 (進を叩いて) よしよし、やないっちゃ。  
華 (外から) 水野でございます・・・  
進 和美ちゃんが出ればいいやん。  
和美 ひとん家の電話に出たら、おかしいやん。  
華 (外から) あ、るっちゃん？うん・・・  
剛 るっちゃんからやん。  
進 (舌打ち)  
剛 早かったね。  
和美 誰？  
剛 いとこ。  
和美 いとこ？

進 望月よ。  
和美 え？あの、るっちゃん？  
剛 今から、二人が来るんよ。  
和美 えー、懐かしい。大きくなっるとるんやろうね。  
剛 なっとなったよ。  
和美 いつ、会ったん？  
剛 去年ぐらい。  
進 上、行くぞ。  
剛 え？  
進 上ちや。部屋。  
剛 ああ。  
和美 何で？  
進 続きするけよ。  
和美 ここですれば、いいやん。  
進 せんちや。  
和美 あ。わー、出た、出た。  
進 うるせえ。  
和美 いとこにも？  
進 (舌打ち)  
剛 もう準備とか、した方がいいんやない？  
進 準備っち、何か？  
剛 分からんけど、服、着替えたり。  
進 ここに来るだけやろうが。  
剛 髪、セットしたり。  
和美 (進の頭を触り) どうしようか。  
進 触んな。  
剛 違う、違う。兄ちゃんやなくて、俺の話よ。  
進 (舌打ち)

と、そこに華が入ってくる。かなりの厚化粧。

華 何だ、和美ちゃんか。  
和美 やっほ。  
進 何、その顔。  
華 え？  
進 顔。  
華 ああ。今、お化粧をね。  
進 いや。  
和美 あれやね。ちょっと・・・はりきったね。  
華 そう？  
和美 うん、ちよっと。  
華 今から、いとこが来るけね。  
和美 ああ。  
進 いつつも、しとらんくせに。

華　　いいやん。たまには。  
剛　　もう来るっち？藍ちゃん達。  
華　　うん。駅についたっち。  
剛　　迎え行く？  
華　　そう言ったんやけど、大丈夫っち・・・  
剛　　だって、歩きやろ？  
華　　そうやね。  
進　　すぐ、そこやねえか。  
剛　　でも、暗いしき。

剛が外に目をやると、縁側から萌が入って来ている。

剛　　ああ。  
萌　　こんにちは。  
剛　　どしたん。  
萌　　あの・・・  
進　　(遮り)上、行くわ。  
華　　え？ちよつと。  
進　　化粧。止めた方がいいと思うぞ。  
華　　何で？  
進　　お化けみたい。  
華　　そんなに？  
和美　　進。

進が部屋を出て行き、二階へ上がって行く。

華　　(和美に) そんなに？  
和美　　お化けは、言い過ぎよ。ねえ？  
萌　　え？はい。  
華　　何なん。  
剛　　機嫌悪いね。  
華　　ホント。あんな、でかい体して。  
萌　　すいません。  
華　　違う、違う。萌ちゃんのせいやないけ。  
和美　　そうそう。  
萌　　すいません。  
剛　　謝らんでいいっちゃ。  
萌　　ありがと。  
和美　　優しいやん。  
華　　こういうとこ、あるんよね。  
剛　　いいっちゃ。何し来たん？  
萌　　あ、樹くんが、和美さん、探してて。  
和美　　え、そなんん？  
萌　　そこ通ったら、見えて。

和美 もう、ばあちゃんがおるやん。ありがとう。

萌 いえ。

和美 あ、華、これ。  
何？

和美は縁側に置いていた鍋を渡し、

和美 ふかし芋。おかんがいつぱい獲って来たけさ。

華 えー、いっつも、ありがとう。

和美 ん、じゃ。

華 おばちゃんによろしく。

和美 はいはい。

和美が慌てた様子で、縁側から外へ出て行く。

萌 あたしも。

華 もう帰るん？

萌 買い物途中なんで。

華 あ、そうなん。ありがとうね。

萌 いえ。じゃあね。

剛 うん。

萌が外へ出て行く。縁側から見送っている剛。

華は鍋の蓋を開け、

華 わー、こんなに。

剛 良かったやん。

華 ね。

剛 好きやもんね。芋。

華 食べ物、大体好き。

華は鍋を持って、台所の方へ出て行く。

剛 たしかに好きやね。食べ物。

華 (外から) るっちゃん達も喜ぶね。

剛 そうやね。

剛は一度、外を眺め、

剛 (外に) 家、分かるんかね？

華 (外から) 大丈夫やろ。昔はよう来とったし。

剛 (外に) 昔やろ？

華 (外から) 昔っち言っても、そんな、ああ、でも、もう7年ぐらいか。

剛 (外に) 俺があんま覚えてないけさ。だけ何か。

華（外から） 最後は。多分おとんの時やけ。あんた、小学生？  
剛（外に） 中1。  
華（外から） ああ、そんぐらいか。中学生で覚えてないっち、どんだけなん。  
剛（外に） いや、葬式の記憶はあるんやけど。

華は、ふかし芋を皿に乗せて戻って来る。

華 覚えとつやん。

剛 だけ。その前というか。

華 前？

剛 正月とか。こつち来よつた頃。

流れの中で、2拍手。踏み台に登り、ふかし芋を供える。

華 それこそ、あんた小学生やろ？

剛 うん。

華 じゃあ、仕方ないやん。小学生なんやけ。

剛 そっか。

華 そうよ。

剛 小学生やもんね。

華 結構、遊んでもらいよつたんにね。

剛 遊んでもらつた、り、は、何か、覚えとつ。

華 じゃあ、十分やん。

剛 そうやね。

華 うん。

剛 7年か。

華 7年よ。

華は、神棚を眺めている。2拍手。踏み台から降りる。  
以降、神棚に触れる際は、前後に2拍手。

剛 ねえ。

華 ん？

剛 何しに来るんやろ。

華 さあ、何やろうね。

剛 聞かんかったん？

華 何しに来るん、とは聞かんやろ。

剛 まあ。

華 あつちにとつても、ここは、おじいちゃん家なんやけ。

剛 そうやね。

華 そうよ。

華 ・・・やっぱ、何があるか分からんけ、

剛 ん？

華 ちゃんと着替えとこ。

華 何があるん？

剛は、慌てるように2階に上がって行く。

華はテーブルの上に放置されたゲーム一式を見て、

華 ちよ、(二階に)これ、片付けりちや。・・・聞こえとるやろ。・・・もう。

華はゲーム一式を、いつも置いてある神棚に乗せる。

華 ああ。

水のなくなった、ワンカップの空き瓶を手にする。

華 (二階に) あんたらのお母さんやないんやけね。

と、そこに自転車に乗った典香が、外から入って来る。

華 (二階に) うちも、いつおらんくなるか分からのやけね。

典香 そうなん？

華 うわ。典ちゃんか。

典香 おらんくなるん？

華 いや。決まってもない、いつかの未来の話をね。

典香 華ちゃん。顔、どうしたん？

華 ……。

典香 かお。

華は部屋を出て行く。

典香 華ちゃん？え？華ちゃん？何？・・・とりあえず、水もらいます。

典香はバケツに水を汲んでいる。

そこに着替えを済ました剛が部屋に入って来る。

剛 お疲れ様。

典香 ああ。ねえ、華ちゃん、どうしたん？

剛 姉ちゃん？

典香 何か、顔が。こご。

剛 顔は、ちよっと、あれ。化粧し過ぎたみたい。

典香 し過ぎっち言っても。

剛 俺は、ちよんとしとるやろ。出過ぎず、引き過ぎず。

典香 え？

剛 服。

典香 服？

剛 ちゃんと着とうやろ。

典香 うん。そりゃ、家でも服は着らんと。  
剛 そうやなくて。いっつも着とうし。服は。  
典香 たまに。パンーやん？あんだ。  
剛 いやいや。うっそ。見られとん？  
典香 丸見えつちゃ。こじ。  
剛 マジで。  
典香 マジで。  
剛 わー。違つつちゃ。そうやなくて。  
典香 何なん？まだ、(石を指差し) お勤めしとらんやけど。  
剛 今から、藍ちゃん達が来るんよ。  
典香 藍ちゃん？  
剛 ほら、藍ちゃんと、るつちゃん。望月のここの。  
典香 ああ。望月の。  
剛 そうそつ。  
典香 へえ。  
剛 何か、軽いね。  
典香 え、だって、別にね。  
剛 ああ、まあ、遠い親戚ぐらいやもんね。  
典香 何が？  
剛 典ちゃんと藍ちゃんたち。  
典香 あんたらと同じちゃ。はとこ。  
剛 え？そうなん？  
典香 遠い、親戚やけど。  
剛 え？何で？  
典香 何でつち、そうやる。  
剛 え？いとこのはとこやけ、違う、いとことはとこやけ、距離で言つと・・・  
典香 距離つち何？ホント、あんたはグズやね。  
剛 グズ・・・  
典香 いい？うちのばあちゃんのお父さん。  
剛 うん。  
典香 これが水野のひいじいちゃんね。  
剛 うちの？  
典香 そう。うちは、ばあちゃんが木田のじいちゃんと結婚したけ、木田。  
剛 あ、もう難しい。  
典香 グズ、聞け。  
剛 グズ・・・  
典香 で、ひいじいちゃんの息子が水野のじいちゃん。その息子が、あんだのお父さん。  
剛 それがお父ちゃんね。  
典香 娘が、望月に嫁いだお婆さん。  
剛 洋子お婆ちゃんのこと？  
典香 名前知らんけど。そうなんやない？分からんけど。  
剛 洋子お婆ちゃんか。  
典香 で、その息子と娘やけ、いとこ。  
剛 だけ、典ちゃんとは、みんな、はとこ。

典香 そう。  
剛 なるほどね。  
典香 分かった？  
剛 ……ほぼ。  
典香 全然、分かってないやろ。  
剛 だけ、(典香を指し) みんなのはとこ。  
典香 時間、無駄にした。  
剛 そんなことないっちゃ。

そこに化粧を落とし、ワンカップの瓶に水を入れた華が入って来る。

華 うちも。  
剛 ああ。  
華 時間、無駄にした。  
典香 あの、(笑って)「ごめんね。  
華 みんなが、変な目で見るけ。  
典香 いや、だってね。  
華 お化けとか言うけ。  
典香 そこまで言っていないやん。  
剛 (上を指差し、コッソリと) 兄ちゃんが。  
典香 あいつ。グズやね。  
華 お化けっち、何なん。  
典香 そりゃ、そうよ。  
華 Q太郎みたいの？うち、Q太郎？  
典香 そんなことないよ。  
華 つーか、お化けっち何。  
典香 そうよ。  
華 そんなもんおらのやけ。この世に。  
剛 (水が) わー、こぼれる、こぼれる。  
典香 (同時に) おらん、おらん。  
華 見たことある？  
典香 ない。  
華 やろ？うちもない。  
典香 非科学的やから。  
華 そうよ。非科学的。  
剛 あの、今、あれかね。お化けの話をしよったんかね？  
華 違うちや。うちの化粧の話やろ。  
典香 そうよ。  
剛 ああ、そっか。そうよね。  
華 うちだってね、女の子したいんやけ。  
典香 何、それ。  
華 女の子っぽいこと、したいんやけ。  
典香 十分、女の子っちゃ。

華は、ワンカップの瓶を神棚に供える。

華 そんなん言ってくれるの、典ちゃんだけよ。

典香 そんなことないよ。

華 ある、ある。

典香 あんたも、そう思うやろ？

剛 俺？

典香 華ちゃんは、いい女よね。

剛 俺が、うん、って言ったら、何かおかしいやろ。

典香 おかしくないっっちゃ。言っちゃりよ。ほら。いい女っち。

剛 姉ちゃんは、いい女よ。

華 気持ち悪。

剛 ほら、こうなるやん。

典香 あんたが、姉をいい女とか、背徳的なこと言っけ。

剛 あ、また出た。

華 典ちゃん、まだおる？

典香 ん？ああ、これ、終わるまで。

華 すぐ戻るけさ、ちよっと、ここ空けていい？

典香 別にいいけど、どこ行くん？

華 買い物。冷蔵庫見たら、ふかし芋しかないけ。

典香 芋？

剛 さっきもらったアイテムやん。

華 車出して。

剛 いいけど。

華 もうすぐ、望月の姉妹が来るんよ。

典香 ああ、さっき聞いた。

華 あ、ホント。もしかしたら、先かも知れんけさ、適当にしとってもらって。

典香 進おるんやろ？

華 当てにならないのよ。全然。

典香 え。ああ。

華 うん。

典香 ホント、グズやね。

華 だけ、ごめんけど、お願い。

典香 大丈夫？ほとんど面識ないよ。

華 上がらせとってくれたらいいけ。

典香 まあ、いいけど。

華 ごめんね。すぐ出るよ。

剛 ああ、うん。

華 よろしくね。

典香 ん。

華と剛が部屋を出て行く。

典香は、お勤めの続きを始める。

二階から進が降りて来て、部屋に入ってくる。

進 どこ行ったん？

典香 買い物。

進 ふーん。(寝転び)はー。

典香 望月が来るんっちなね。

進 みたいやね。

典香 他人事。

進 他人事よ。

典香 当てにならんっち言われよったよ。妹に。

進 されても困るし。

典香 いとこやろ。

進 いとことか。

典香 何？

進 何年も会つとらんかったら、他人やわ。

典香 まあ。そうかもね。

進 そうちゃ。(溜息のように)あー。

典香 何しよん、そこで。

進 見たら分からん？

典香 全然、分からん。

進 ゴロゴロしとるんよ。

典香 じゃあ、分かる。

進 やろうが。

典香 (ため息)ヒマなん？

進 そうやん。チンチロせん？

典香 ヒマなら、一緒に、これする？

進 せん。

典香 あ、そ。

進 せつかくの休みなんやけ。

典香 あ、そ。

進 誰にも会わんでいい、休み。

典香 ・・・。

進 なんに、のー。

典香 面倒臭いん？

進 100パーセントで、面倒臭い。

典香 グズ。

進 グズ言うな。

水をかける。ザバン。

典香 いつまでおるん？ここに。

進 俺？

典香 あんたやないちゃ。望月。

進 さあ。

典香 何しに来るん？

進 知らん。  
典香 他人事。  
進 他人事よ。

と、勝手口から声を聞こえる。

瑠璃 (外から) ごめん下さい。

進 (舌打ち)

典香 はーい。来たんやない？

進は起き上がりながら、

進 任せたわ。

典香 ちょ、最初ぐらい。ねえ。

進は部屋を出て行く。速度を上げ、階段を登って行ったのが分かる。

典香 マジ、グズ。(外に) はーい。

藍子 (外から) 華ちゃん？

典香 あの(外に) 違いますけど。どうぞ、上がって下さい。

典香は縁側で靴を脱ぎ、部屋に上がる。  
少し間。

典香 あれ？(外に) どうぞ。

瑠璃 (外から) すいません。お邪魔します。

典香 (ポツリと) そりゃ、不審やわ。

典香は部屋から少しだけ出て、

典香 あ、こんにちは。

瑠璃 (外から) こんにちは。

藍子 (外から) (ほぼ同時に) こんにちは。

典香 今、華ちゃんと剛、買い物に出とって。

瑠璃 (外から) あ、そうなんですね。

典香 どうぞ。こっちに。

藍子 (外から) すいません。

典香に促され、瑠璃子と藍子が部屋に入ってくる。

瑠璃 すいません。

典香 いえ。ああ、座って。座って。

藍子 あ、すいません。

とりあえず座る、瑠璃子と藍子。  
間。三人（特に迎え入れる典香）は妙な緊張感がある。

典香 そうよね。誰っち感じよね。

瑠璃 いや、あ、すいません。

典香 こっちは知っとったけさ、来るの。だけ、何か。分からんよね。

藍子 （曖昧な返事）

典香 うちも分からんもん。大きくなっとるし。

瑠璃 典、ちゃん、さん？

典香 え？

瑠璃 あ、違いました。典、ちゃん、さん。

典香 ううん。韓流っぽくなっとるけど、そう。分かった？

瑠璃 いや、すいません。分からなかったですけど。

典香 あ、そうよね。

瑠璃 何か、流れで。そうかなって、思いまして。

典香 すごいね。よう名前が出たね。

瑠璃 （藍子に）ほら、そのの。木田さんの。

藍子 え？あ、木田さんこのの？

典香 そうそう。そのの。典、香。

藍子 （瑠璃子に）ええ。全然分からなかった。

典香 いや、分からんよ。多分、何回かしか会ってないよね？

瑠璃 多分、そうですよね。

典香 相当小っちゃかったし。（藍子に）ね？

藍子 あの、そうですね。

瑠璃 あんた、小学生ぐらいやない？

藍子 そんな？

典香 いや、でもそれぐらいよ。多分、今何歳？

瑠璃 私が27で、こっちが、えー、

藍子 25。

典香 そっか。じゃあ、ここで2コやんね。

瑠璃 そんな感じやったんですかね。

典香 （上を指差し）進と一緒やけ。

瑠璃 （一瞬、指に向かつて、上を見て）あ、そっか。そうですね。進くんも29か。

典香 （藍子に）え、じゃあ、華ちゃんと一緒？

藍子 そうです。

典香 わー、若いわ。

藍子 そんな変わらないですよ。

典香 もうすぐ、三十路やし。

瑠璃 いやいや。

典香 あー、何か、懐かしいね。

藍子 え？あ、はい。

一瞬の間。

典香 (へらっと、立ち上がり) あ、じゃあ。  
藍子 (立ち上がろうとし) はい。  
典香 あ、大丈夫。ちょっと、お勤め、あの、やることがあるけ。  
藍子 ああ。  
瑠璃 すいません。そんな時に。  
典香 全然、全然。多分、すぐ帰って来ると思っけ。そこやけ。  
瑠璃 すいません。  
典香 じゃあ、ごゆっくり。  
藍子 すいません。

典香は開きつ放しだった障子をへらへら顔で閉め、外へ出て行く。

藍子 何か・・・すごいしゃべったね。  
瑠璃 (笑い) そうやね。  
藍子 あんな感じの人、やったん？  
瑠璃 どうやろ。(少し外を気にして) あんま覚えてないけ。  
藍子 うん。

二人は、何となく外の方を見る。

瑠璃 木田さんっち言ったら、  
藍子 何？  
瑠璃 お年玉くれる家っち感じやもん。  
藍子 あ、それ分かる。  
瑠璃 やろ。  
藍子 行きよったね、もらいに。それは覚えとう。  
瑠璃 現金やねー。  
藍子 ここの三人連れて。  
瑠璃 ここの三人を盾に。  
藍子 そうやね。

二人は笑っている。  
と、外からジャバンという水の音が聞こえる。

藍子 何しよんやろ。  
瑠璃 お勤めっち。  
藍子 (笑って) 何、お勤めって。  
瑠璃 知らんよ。

まだ、水の音が聞こえている。

藍子 何で、閉めたんやろ。  
瑠璃 気を使わせんように？  
藍子 ・・・覗かれんように？

瑠璃　でも、外、丸見えよ。  
藍子　でも、あっちにおるけ。  
瑠璃　たしかに見えんね。  
藍子　え、何しよんやろ。水の音やろ、あれ。  
瑠璃　うん。多分。  
藍子　人ん家で水を使ううち・・・わー、想像つかんで、気持ち悪い。  
瑠璃　行水とか。  
藍子　何で。ここで。  
瑠璃　そうやね。  
藍子　覗く？  
瑠璃　えー。  
藍子　覗きたくない？  
瑠璃　覗きたい。

二人は障子のそばへ行き、

藍子　鶴の恩返しみたい。  
瑠璃　じゃあ、覗いたらダメやん。  
藍子　大丈夫、大丈夫。こんなん、ワクワクする。  
瑠璃　悪趣味。  
藍子　姉ちゃんも共犯よ。

二人はそつと障子を開き、顔を出し、外を覗く。

藍子　ん？何しよん、あれ。  
瑠璃　・・・石。  
藍子　あ、ホント。石に水かけよる。え、何で。  
瑠璃　・・・。  
藍子　あれがお勤め？

瑠璃子は、急に障子を大きく開く。

藍子　わ。姉ちゃん？

外にいた典香は驚き、二人を見ているようである。

典香（外から）　どしたん？  
藍子　あ、ごめんなさい。  
典香（外から）　え？  
藍子　あの（瑠璃子を見て）、覗いてました。

典香の姿が外に見える。

典香　え？（バケツを手に）これ？

藍子 何しよんか なつち思つて。ごめんなさい。  
典香 いや、全然いいけど、面白くないやろ。石洗いよるの、見ても  
瑠璃 石。  
典香 うん。石。

と、外から声が聞こえる。

華（外から） ただいま。

典香 お、早い。

藍子 姉ちゃん。帰つて来たよ。

瑠璃 あ、うん。

典香 相当急いだね。

藍子（外に） おかえりなさい。

華（外から） 藍ちゃん？

藍子（外に） うん、そう。

華（外から） ごめんねー。

藍子は部屋を出て、二人を迎えに行く。

典香（笑つて） 反応が全然違うし。

瑠璃 石。

典香 ん？

瑠璃 いつも洗つてるんですか？

典香 そうよ。毎日。

瑠璃 毎日？

典香は縁側に腰をおろし、

典香（笑つて） おかしいやろ？

瑠璃 え？

典香 うちがやりよるの。

瑠璃 いや・・・まあ・・・水野のですもんね。

典香 そうなんよ。おかしいと思ふもん。うちも。

瑠璃 ・・・・じゃあ、

典香 まあ、話せば、長くなるんやけどね。

瑠璃 はい。

典香 いやいや、マジで長いよ。

瑠璃 はい。

典香 うんと・・・だけね、簡単に言つと、

瑠璃 え、はい。

典香 うちのじいちゃんがしよつて、これ。

瑠璃 そうなんですか。

典香 うん。けど、腰が悪くなつて。

瑠璃 だけ代わりに。

典香 代わりっちゅーか、まあ、せんならせんでいいんやけど。  
瑠璃 ああ。

典香 小っちゃい頃から、一緒にしよったけ、何か、せんと気持ち悪いんよ。  
瑠璃 習慣みたいな。

典香 そうそつ、それ。毎日、歯磨きするやろ？  
瑠璃 はい。

典香 そんな感じ？

瑠璃 それは、こう、自分の一部分みたいになっとって・・・

典香 あ、ごめん。それは言い過ぎた。

瑠璃 ああ。

典香 だけ、あれやね。何やる。例えば。あー、全然例えられん。

瑠璃 ああ、いいですよ。例えば。

典香 とりあえず、何か、そういうこと。簡単に言っとね。

瑠璃 ホントは、色々あるんですよ。

典香 色々っち、大したことやないけど。

瑠璃 分かる気がします。

典香 ん？何が？

瑠璃 さっき、思い出して。

典香 何を？

瑠璃 母が、石にお供えしよったの。

典香 ああ、そういえば昔はしよったね。

華と藍子、その後をついて剛が入ってくる。

華 ごめんね。典ちゃん。ありがとう。

典香 いーえ。

華 これ、持って帰って。

華は箱に入った、いちじくを渡す。

典香 え、いいんに。

華 いや、おってもらって、助かったけ。気持ち。

典香 そんなん、せつかくやけ、二人にさ。

華 それは別にあるけ、ちゃんと。

典香 さすが華ちゃんやね。

華 やろ？

いちじくを受け取り、

典香 じゃあ、遠慮なく。

華 もう、終わったん？

典香 うん、今日はここまで。

藍子 今日？

華 お疲れ様。

瑠璃 お疲れ様。

藍子

典香 疲れんよ。(歯を磨く動きで) 気持ち悪いだけやけ。

瑠璃 歯磨きは、違うんでしょ？

典香 そうやったね。

瑠璃 今度聞かせて下さい。色々。

典香 今度ね。

藍子 ……。

瑠璃 はい。

典香 あ、敬語とかいいけ。年も近いんやし。はどこなんやし。

瑠璃 うん。

典香 (歯を磨く動きで) 気持ち悪いけ。

瑠璃 (笑って) そうやね。

典香 そっちの…あの…

華 藍ちゃん。

典香 藍ちゃんも。

藍子 あ、はい。

華 (瑠璃子を指し) るっちゃんね。

典香 るっちゃん、るっちゃん。

典香は自転車にまたがり、

典香 剛は、明日から敬語ね。

剛 何で。

典香 (笑って) じゃ、また明日。

瑠璃 うん。

華 気をつけて。

典香 すぐそこちや。

華 そやね。

典香 (二階に) じゃあ、ね。

藍子 ん？

典香は自転車に乗って、外へ出て行く。

瑠璃子は典香を見送り、そのまま石を眺めている。

藍子 じゃあねの、距離感。

瑠璃 この家と言ったんやない？

藍子 (納得) ああ、家に。(できずに) 家に？

華 ああ、違っんよ。

藍子 え？

華 あのー、多分、兄ちゃんに。

藍子 進くん？

瑠璃 え、二階におるん？

華 うん。

藍子 どういうこと？（二階を見て）全然……  
華 だけ、（剛に）ね。  
剛 こっちに振らんでよ。  
瑠璃 え、何？  
華 ちょっと。あんま、人に会いたくない、（剛に）んよね？  
剛 うん、まあ。  
藍子 会いたくないっち、  
華 何やるう。こう、遮断してる、みたいな。  
瑠璃 遮断。  
藍子 それは、あれ？部屋を出ない、というか。  
華 あ、出る、出る。  
藍子 ああ。  
剛 仕事には行きよるしね。  
藍子 あ、そうなん。  
剛 一応。  
華 こう、知らん人と、話せんというか。話さんというか。  
瑠璃 知らん人？  
華 あ、知らん人っちおかしいね。知っとるもんね。  
藍子 いや……  
華 あれやね、超内弁慶。  
藍子 内弁慶？  
華 超、内弁慶。いい例えやない？  
剛 分からんけど。  
華 だけ、気にせんでいいよ。全然。  
藍子 ……うん。  
華 うちらは、楽しみやったんやけ。ね？  
剛 そうやね。  
藍子 なら、あれやけど。  
華 剛とか、わざわざ着替えたんやけ。  
剛 言わんでいいっちや。  
華 アピールとかんと。  
剛 恥ずかしいわ。  
瑠璃 何か、言っとかんでいい？  
華 大丈夫。もうね、ほたつとった方がいいけ。ゆっくりしとって。  
瑠璃 うん。  
華 あ、何か、食べてきた？  
瑠璃 ううん。まだ。  
華 さっきね、芋もらったんよ。軽く、食べる？  
藍子 あ、食べる、食べる。  
華 じゃあ、持って来よ。  
瑠璃 手伝おうか？  
華 大丈夫。温めるだけやし。  
瑠璃 いやいや。

しゃべりながら、華と瑠璃子が台所へ出て行く。  
台所へ向かう二人のしゃべり声が聞こえる中、少しの間。

藍子 あるよね、そういうのも。  
剛 え？  
藍子 っち、思った。  
剛 ああ。  
藍子 ごめんね、進くん。やね。  
剛 俺は、ホントに楽しみやったよ。  
藍子 うん。  
剛 うん。

静けさに耐え切れず、吹き出してしまふ藍子。

剛 どしたん？  
藍子 (笑って) ちょっと緊張するね。変なの。  
剛 そうやね。  
藍子 昔は全然、そんななかつたんに。  
剛 大人になつたけね。  
藍子 大人？  
剛 大人よ。だって、俺、二十歳やもん。  
藍子 昔に比べたらね。  
剛 そりゃ、昔は誰だって、子どもやん。  
藍子 (笑い) 当たり前のこと言つたね。  
剛 大きくなつたやろ。  
藍子 そうやね。  
剛 もうね、一人前の男やから。  
藍子 (笑い) 一人前。  
剛 何？おかしい？  
藍子 大人っち言われても、何か、こう、ピンと、こんね。  
剛 来んかね？  
藍子 うん。

少しの間。

剛 藍ちゃん、彼氏おるん？  
藍子 え、急やね。  
剛 久しぶりやし。色々聞きたいやん。  
藍子 おらんよ。悪い？  
剛 そうなん？もつたいないい。  
藍子 何、もつたいないっち。  
剛 だって・・・ねえ。姉貴でもおるんに。  
藍子 華ちゃん、おるん？  
剛 不思議やろ。

藍子 何で。おってもおかしくないやん。  
剛 いやいや。  
藍子 しつかりしとるし。かわいいし。  
剛 かわいいは嘘やん。  
藍子 いや、かわいいよ。愛嬌があつて。  
剛 愛嬌は・・・分かんけど。  
藍子 タカちゃんは？  
剛 俺？  
藍子 うん。  
剛 俺は・・・  
藍子 大人の男やもんね。  
剛 まあ・・・そうやね。  
藍子 わ、おるんやん。へー。  
剛 おるといふか・・・まあ。どうかね。  
藍子 え、何、それ。  
剛 俺の話はいいやん。  
藍子 何で、何で。  
剛 そうやん。ゲームせん？  
藍子 ゲーム？  
剛 チンチロリン。分かる？  
藍子 わ、懐かしい。  
剛 ん？  
藍子 昔、ここでやりよったね。  
剛 そうやったつけ？  
藍子 正月とか、みんなで。ホント、みんなでしよったよね。

剛は神棚から、ゲーム一式を取り出す。

剛 えー、覚えてない。  
藍子 小さかったもん、タカちゃん。ほら、継子しよったやん。  
剛 継子？  
藍子 そうよ。ちょっと邪魔な、あれ。  
剛 ひど。  
藍子 (笑い) 子どもやったけね。え、そんなとこに置いとん？  
剛 ああ。  
藍子 神棚やろ？  
剛 一応、親父の、何て言うん？形見やけ。  
藍子 好きやったもんね。おいちゃん。  
剛 死ぬまでやりよったけ。  
藍子 何か分かる、それ。  
剛 形見とか言つて、雑に扱われようけど。(サイコロを渡し) はい。

藍子はサイコロを器に投げ入れる。チンチロリン。

藍子 この音。  
剛 ルール、覚えとう？  
藍子 うん、多分。大丈夫と思う。  
剛 何か、賭ける？  
藍子 え、お金。  
剛 お金はあれやね。  
藍子 じゃあ、罰ゲームとかにしようや。  
剛 お、いいよ。  
藍子 ホントにいいん？  
剛 え？どんなにするつもりなん。  
藍子 やらしいこと、言うかも知れんよ。  
剛 (笑って) 何、それ。  
剛 (笑い) 俺から行くね。  
藍子 数字が大きい方がいいんよね？  
剛 同じやつじゃないやつね。だけ、2。  
藍子 よし。(サイコロを振る) 4。  
剛 わー、俺の負けやね。何にする？  
藍子 え？早い。どうしよ。じゃあ・・・腕立て、5回。  
剛 いいよ。

剛は腕立てをしながら、

剛 次、藍ちゃんからいいよ。  
藍子 よし。(サイコロを振る) あ、バラバラ。  
剛 あ、でも、456やん。  
藍子 そんなあったね。  
剛 どうする？  
藍子 え？もう言っただいん？  
剛 俺の負けやけ。  
藍子 え、じゃあ・・・腕立て5回。  
剛 また。  
藍子 ほら。

剛は腕立てを5回する。

剛 きちー。  
藍子 罰ゲームやけ。  
剛 次、俺から行くけ。  
藍子 うん。  
剛 こいつ。(サイコロを振る) 1。  
藍子 弱。継子やん。  
剛 振って。  
藍子 え？

剛 次、藍ちゃん。  
藍子 1 やったたら、もう負けやろ。  
剛 よう覚えとうね。  
藍子 何か、思い出して来た。  
剛 罰、何したら、いい？  
藍子 じゃあ・・・腕立て。  
剛 (同時に) 腕立てね。  
藍子 うん。  
剛 全然、面白くない。  
藍子 だって、分かんもん。

腕立てをしながら、

剛 あるやん。色々。  
藍子 タカちゃんが、勝たんけ。  
剛 次は絶対、勝つ。マジで、腕がパンパン。  
藍子 じゃあ、行くよ。(サイコロを振る) 4。  
剛 何で、そんな強いん。  
藍子 運やろ？  
剛 マジで、こい。(サイコロを振る) よっしゃ、5。  
藍子 わー、負けた。何？  
剛 どうしようかな。  
藍子 腕立て？  
剛 じゃあ、10秒間、こちよこちよ。  
藍子 何、それ。  
剛 罰やけ。行くよ。  
藍子 え、うそ。待って。

剛がカウントダウンしながら、こちよこちよ。  
逃げようとする藍子と、追いかける剛。何だか、盛り上がっている。  
と、縁側から萌が入って来る。スーパールの袋を手に。

萌 .....  
剛 うわ。  
萌 こんにちは。  
藍子 こんにちは。  
剛 何しよん？  
萌 そこ通ったから。  
剛 何回、通るんか。  
萌 .....  
剛 どしたん？  
萌 ここが見えて。  
剛 え、ああ。  
藍子 あの・・・タカちゃんの友達？

剛 あー、  
藍子 あ、彼女？  
剛 まー。  
藍子 何、テレとん。  
剛 大村萌。  
萌 大村です。  
藍子 望月です。あ、いここです。

妙な間。

藍子 はい。  
萌 何してたの？  
剛 何っち、(チラッと藍子を盗み見て) ゲームしよったんよ。  
萌 ゲーム。  
剛 サイコロゲームからの、今は罰ゲームの執行。10秒間こちよこちよ。王道の。  
萌 (鼻で笑う)  
藍子 あ、あれやったら、一緒にせん？ゲーム。  
萌 ……  
藍子 二人やと、すぐ終わるけ。面白くないんよ。  
剛 ああ、そうね。  
萌 邪魔じゃない？  
藍子 何で？全然。  
剛 うん。  
萌 じゃあ。

袋を置き、萌が縁側から上がり、

藍子 ルール分かる？これ。  
萌 分かります。ルール。  
藍子 やったことあるん？  
萌 はい。タカちゃんと。  
藍子 あ、そうなん？  
剛 よし、じゃあ。俺から行くね。

先ほどまでとは違い、静かにゲームが進行する。剛の勝利。

剛 よし。  
藍子 ああ。はい、どうぞ。  
剛 ん？  
藍子 罰ゲーム。  
剛 ああ、じゃあ…腕立て。  
藍子 何、それ。(萌に) できるっ？  
萌 できます。

藍子と萌、腕立て伏せ。それを見ている剛。  
そこに華が、ふかし芋を持って、部屋に入ってきて来る。

華 何しよん？あれ、萌ちゃん。

萌 (腕立てをしながら) こんにちは。

華 何でそんなんしよん？

藍子 (腕立てをしながら) 罰ゲーム。

華 またゲームしよん。

剛 うん。

華 好きやねー、ゲーム。

剛 別に・・・

萌 好きよね、ゲーム。

剛 ・・・・

藍子 (5回して) ああ、きつい。よう何回もできたね。これ。

剛 そうやろ。

華 萌ちゃんも一緒に食べる？

萌 いえ、帰ります。

華 あ、そうなん？

萌 買い物途中なんです。

藍子 そうやったん？ごめんね、引き止めて。

萌 いえ。

華 じゃあ、これ、持って帰り。

華は芋を一つ、萌に渡し、

萌 すいません。お邪魔しました。

藍子 またね・・・(苦笑) また。

萌が、スーパーの袋を持って、縁側から外へ出て行く。

華 (外に出た萌に) ちょっと待って。(剛に) あんた、送ってっちゃり。

剛 何で。すぐそこやん。

華 荷物、重そうやし。

剛 いや・・・

藍子 そうやね。

華 ほら。

剛 はいはい。

剛が勝手口の方へ出て行く。

華 (外の萌に) 今、剛が行ったけ。荷物、持たせて。

萌 (外から) あ、はい。

華 (外に) 気をつけてね。(藍子に) 気がきかんけね。あいつ。

藍子 どうかね。

華 あ、食べて。あったかいよ。  
藍子 ああ、うん。ありがと。  
華 うちも。

二人はふかし芋を手にする。食べながら、

藍子 何か、すごいわ。

華 え？何が？

藍子 お母さんみたい。

華 お母さんやないちや。

藍子 いやいや、ホント、しっかりしてる。

華 環境がね。小っちゃい頃からやけ。

藍子 そっか。

華 もうね、20年近く色々しよったら、気になるんよ。

藍子 そうかもね。

華 あの、クソ親父が何もせんやったけ。

藍子 偉いね。

華 全然。嫌になるもん。自分で。

藍子 何で？

華 所帯じみた独身。

藍子 (笑う)

華 笑い事やないちや。

藍子 あ、じゃあ、結婚したらいいんやん。

華 え？

藍子 そしたら、追いついて来るやん。そういう全部。

華 結婚とか、出来んよ。

藍子 だって、彼氏おるんやろ？

華 何で知っとな？

藍子 タカちゃんから、聞いた。

華 ああ。うん、まあ、そうなんやけど、

藍子 けど？

華 なかなかね。

華は芋を口にする。(ニコ以外も食べて良い)

藍子 分かった。プロポーズしてくれんのやろ？

華 . . .

藍子 最近多いらしいよ、そういう男。

華 いや、ね。

藍子 逆にしてみるとか。逆に。

華 逆なんよ。

藍子 ん？

華 逆。

藍子 あ、逆が多すぎて、分からんくなった。

華 だけ・・・そういうこと。  
藍子 (驚き) え、プロポーズされたん？  
華 あ、ちよつと、声が大きいの。  
藍子 あ、ごめん。え、(二階を小さく指差し) まだ言っていないん？  
華 うん。  
藍子 何で？  
華 何でっち・・・ねえ。  
藍子 え？

外から、2拍手が聞こえる。

二人は音に気付き、縁側から外を覗き込み、

華 ああ、るっちゃんか。そこにおったん。

瑠璃 (外から) うん。

藍子 何しよん？

瑠璃 (外から) お供え。

藍子 え？

瑠璃 (外から) お供えよ。

華 そこに？

瑠璃 (外から) うん。あ、まずかった？

華 別にいいけど。

瑠璃 (外から) お母さん、好きやったけさ。さつま芋。ね？

藍子 そうやね。

華 ああ。

瑠璃子はその場を離れたようである。

藍子 ・ ・ ・ 大丈夫？

華 え？

藍子 あそこ、置いとって。

華 大丈夫、やけど、多分カラスに持ってかれるかな。

藍子 あ、そうやね。

華 うん。

藍子 ごめんね。

華 とりあえず、カラスは喜ぶよ。うん。

藍子 ・ ・ ・ ごめんね。

華 好きやったんよね、おばちゃんが。

藍子 さつま芋？

華 るっちゃんが。

藍子 うん。

華 嫌いな人は、まあ、そんなおらんね。

藍子 私も好きやったよ。

華 そりゃ、そうよ。

藍子 姉ちゃんね・・・(笑って) ちよつと・・・異常。

華 異常？  
藍子 うん。異常。  
華 もう1年、経つんかね？  
藍子 それぐらい。  
華 何か、早いね。時間が経つの。  
藍子 そうでもなかったよ。意外と。時間が経つの。  
華 そっか。

二人は芋を食べる。

藍子 結婚できんのはさ、  
華 (笑い)話、戻したね。  
藍子 二人が心配やけ？  
華 え？  
藍子 二人。  
華 違う、違う。  
藍子 違うん？  
華 いや。それも、なくはないけどね。  
藍子 それは、気にせんでいいと思うよ。  
華 うん。分かっとるよ。  
藍子 それは、どっかで、諦めんと。  
華 諦めるって。  
藍子 だって、そうよ。  
華 そうやね。  
藍子 どっかで。私はね、そう思う。

藍子は芋を食べる。藍子を見ていた華も、芋を食べる。と、二階から、進がゆっくりと降りて来る音が聞こえ、台所で、進の姿に気づいた瑠璃子の声がする。

瑠璃子(外から) あ、お邪魔してます。  
進(外から) あ、お。  
藍子 進くん？(横切り)あ。

バタバタと隣の部屋を走り、トイレに入って行く進。

藍子 そんな急がんでも。  
華 兄ちゃん。  
藍子 そういうことなんよね。

瑠璃子が部屋に入って来て、

瑠璃子 あれ、進くんよね？  
華 うん、そう。分からなかった？

瑠璃 街であつたら、多分気付かんね。  
藍子 何か、だいぶ変わった？

華 そうやね。変わったかも。

瑠璃 そうよね。

華 太ったけねー。外に出らんし。

藍子 いや、太ったのは、あれやけど。

華 ん？

瑠璃 頭は？

藍子 それ。

華 あ、そんなに会ってないんか。

藍子 結構前から？

華 うん。自分でやりよん。バリカンで。

藍子 それは、あれ？床屋に行きたくないけどか？

華 多分。

瑠璃 徹底しとるね。

藍子 うん。

華 全然会ってなかったら、そうよね。ビックリするよね。

藍子 葬式も来れなかったし。

華 ああ。

藍子 え、あれも？

華 いや、仕事もあつたと思うけど・・・そうやね。

瑠璃 そうなんやん。

藍子 結構、大変なんやね。

華 いや、こちらは慣れたけ。

瑠璃 慣れる？

華 いや、慣れたつちいうのも、あれやけど。受け入れるというか。

藍子 やっぱ、華ちゃんよ。

華 え？

藍子 華ちゃんが、動かんと。

華 いや、それは・・・

藍子 そしたら、何か、変わるって。

進がトイレから出て来る音がする。

華 兄ちゃん。

が、目もくれずに二階に上がって行く。

藍子 徹底的。

華 もう、挨拶ぐらい。

華が追いかけて行く。

瑠璃 ああ、いいよ。

華（外から）　ねえ、ちょっと。

階段を上がって行く音。

瑠璃子はテーブルの上の芋を手にし、

瑠璃　華ちゃんも、大変やね。

藍子　・・・。

瑠璃　ね。

藍子　そうやね。

瑠璃　仕事しようっち言いよったけど、（笑って）ちゃんと出来よんやか。

藍子　うん。

瑠璃　みんな、色々あるね。

藍子　ホントやね。ホント。

瑠璃子は縁側から外を眺め、風が吹いたようで、草の擦れる音がする。ササー。

瑠璃　あ、いい匂い。何やろ、甘い匂い。

藍子　芋なんやない？

瑠璃　（笑って）全然違うし。もっと、あー、何ち言うんやろ。柔らかい感じ。

藍子　柔らかい。

瑠璃　イメージよ。フワフワしとって。

藍子　分かんけど。

瑠璃　匂わん？そっち。

藍子　私は、人ん家の、臭いがする。

瑠璃　えー、そう？

藍子　うん。

草の擦れる音。ササー。

瑠璃　あ、ほらほら。

藍子　ねえ。

瑠璃　ん？

藍子　先に墓参り、行っとかん？

瑠璃　今から？

藍子　そのために来たんやし。

瑠璃　うん。

藍子　早い方が良くない？

瑠璃　ああ（石を気にして）、そうやね。あ、

外から剛が帰って来たようである。

瑠璃　おかえり。

剛（外から）　ただいま。

瑠璃　おかえりっち。何か、あべこべやね。

剛（外から）　　そうやね。  
瑠璃　どうかしたん？  
剛（外から）　　え？何で？

藍子も縁側に近づき、

瑠璃　何か・・・なんもないなら、いいや。  
藍子　（笑って）喧嘩でもした？  
剛（外から）　　してない。

華が二階から降りて来て、部屋に入って来る。

華　帰って来た？  
藍子　うん。  
華　ごめんね、兄ちゃんが。  
藍子　ううん。全然いいよ。  
瑠璃　ねえ、これ、何の匂い？  
華　匂い？

華は縁側の近づき、

瑠璃　ほら、この甘い感じの。  
華　え？（大きく深呼吸）何かする？  
瑠璃　せん？ほら。  
華　（再び、深呼吸。笑って、自分の持つ）芋の匂いがする。  
藍子　ほら。  
瑠璃　えー、違うちゃ。  
華　今やったら、金木犀？まだ早いか。  
瑠璃　ああ、でも、そんなんかも。  
華　分からなくなるとんかもね。いつもの匂いやけ。  
瑠璃　そうよ。絶対。するもん。  
華　（深呼吸、やっぱり）芋の匂いがする。

華は芋を食べる。勝手口から剛の声がする。

剛（外から）　　ただいま。  
華　おかえり。ちゃんと送ってっちゃった？  
剛（外から）　　うん。

剛は二階に上がって行く。

華　あら？  
藍子　華ちゃん。  
華　ん？

藍子 ちよっと、お墓行って来るね。  
華 今から？  
藍子 うん。  
華 じゃあ、一緒に行こうか？  
藍子 大丈夫よ。場所も分かるし。(瑠璃子に) ね？  
瑠璃 うん。大丈夫。  
華 そう？  
瑠璃 うん。  
華 あ、お線香、持って行く？  
藍子 ちゃんと持って来とるよ。

藍子は自分のバッグから線香を取り出す。

華 え？そうなん？  
藍子 うん。  
華 用意がいいね。  
藍子 やろ？  
華 盆に行ったけ、まだキレイやと思うけ。  
瑠璃 ありがとう。  
藍子 行くよ。  
瑠璃 はーい。

華は藍子に線香を渡す。  
二人は、勝手口の方から外へ出て行く。

華 気をつけてね。  
瑠璃 (外から) 行ってきます。

華は見えなくなった二人を見送り、  
芋の乗ったお皿を片付けようとすると、ゲーム一式があり、

華 (独り言で) 全然やん。

華はゲームを神棚に上げ、外に出て行く。

2.

作業着姿の進が、辺りを窺い、部屋に入って来る。  
と、水を汲もうとバケツを持った典香が、外に現れる。  
進は、一瞬慌てるそぶりを見せるが、典香だと確認すると、

進 何だ、ノリか。

典香は進に気付き、

典香 ああ、おかえり。  
進 おったんやん。  
典香 ごめんね、おって。  
進 別に、お前ならいいや。  
典香 あー、偉そうに。

典香、チラッと石のある方を見て、縁側に腰をかける。

進 ずっと敵ばっかなんやけ、少しぐらい、

と、外に和美が現れる。

和美 じゃーん。

やはり一瞬慌てるが、和美と確認すると、

進 もう。何なん、じゃーんっち。

和美 登場の音よ。

進 そんなんするの、おばさんやけね。

和美 誰がおばさんっち？

進 冗談やん。

和美 おじさんに言われたくないし。

進 おじさんやねえちや。

和美 (鼻で笑う)

進 何かちや。

典香は、こっそりと石の方へ行く。

和美は部屋の中へ上がって行く。

和美 部屋におらんでいいん？

進 何、その言い方。

和美 だって、そうなんやろ？

進 (舌打ち) ずっとおったら、息が詰まる。

和美 引き籠もりの台詞とは思えんね。

進 引き籠もりやねえちや。一緒にすんな。

和美 意味のないプライド。

進 他のやつは？

和美 買物らしいよ。

進 みんなで？

和美 みんなか、分からんけど。

進 ふーん。

石の方で典香が「早く。」などと言っている。

進  
ん？

と、外に瑠璃子が現れる。

瑠璃 あ、ごめんね。

進 あ、お。

典香 (外から) 違うちや。じゃーんっち。登場の。

瑠璃 じゃーん。

進 (和美を見て)

和美 二人で、石洗いよったけさ。

進は一目散に部屋を飛び出し、二階へ上がって行く。

和美 ちよ、進ちや。

瑠璃 (二階に) ごめんね。

和美 あいつ、何し来たん？ここに。

典香 寂しがり、やけね。

和美 そうなんよね。

典香 意地張らんで、ここにおりや、いいんに。

和美 それ、それ。

典香 ホント、グズ。

瑠璃 悪いことしたかね。

典香 いいんよ。甘えとっただけなんやけ。

瑠璃 うん。

和美 ちよっと、休憩しようや。

典香 和ちゃん、何もしとらんやん。

和美 いいっっちゃ、いいっっちゃ。(二階に) お茶もらっね。

和美が台所へ出て行く。

典香 何が、いいっっちゃなん。無茶苦茶やわ。

瑠璃 相変わず、パワフルやね。

典香 和ちゃんは、覚えとん？

瑠璃 すぐには分からんかったけど。

典香 へえ。

瑠璃 よう遊んでもらいよったし。

典香 うちは、覚えてなかったんに。

瑠璃 仕方ないやん。

典香 お互い様やしね。

瑠璃 そうよ。

和美 (外から) あんたもお茶せん？

典香 それが、もうお母さんなんやけ。

瑠璃 すごいよね。

和美（外から）　ねえちや。

典香　あー、うちはどうするんやろ。

瑠璃　予定は？

典香　全くよ。

瑠璃　じゃあ、一緒やね。

典香　残念やわ。

和美は部屋に入ってきて、

和美　無視、無視。

典香　ほたつとき。

和美　チャンスかなっち、思うやん。

典香　チャンス？

和美　引き籠もり脱出。

典香　世話焼きよね。意外と。

和美　意外っち何？

和美はお茶を注いでいる。

瑠璃　あ、ごめんね。

和美　だって、せっかく、いとこが来とんやけ。

典香　段階的にね。

和美　そうそう。知らん仲やないんやけ。そこから。

瑠璃　会ってもくれんけど。

和美　それちや。

典香　何年も会わんと、他人なんて。

瑠璃　他人。

典香　自分から会わんくせに。

和美　そんなん、よっほど、うちのが他人やわ。

典香　近所のおばちゃんやもんね。

和美　そうよ。誰がおばちゃんっち？

典香　近所のお姉さん。

和美　他人とか、

お茶を配り、

瑠璃　ありがと。

典香　（ほぼ同時に）ありがと。

和美　血がつながつとるんやけ。

典香　血、ね。

和美　じゃあ、再会に乾杯。

乾杯する三人。

瑠璃 (笑い) 再会。  
典香 再会は、何か違うくない？  
和美 再会は、再会やろ。  
典香 まあ、そうやけど。  
和美 あー、お茶。  
典香 お酒が良かった？  
和美 雰囲気が出らんやん。  
典香 そうやね。  
瑠璃 こんな時間から。  
和美 背德的やろ。  
瑠璃 背徳。  
典香 (瑠璃子に) 最近、気に入っとん。  
和美 かっこよくない？響き。  
瑠璃 背徳？  
典香 人に道に背くっちことやけね。  
和美 そうよ。  
典香 どころが、かっこいいん？アウトローみたいな？  
和美 だけ、響きっちゃ。あんたも使いようやん。  
瑠璃 え、そうなん？  
典香 うつつたんよ。しつこく使うけ。  
瑠璃 分かる、そういうの。  
典香 やろ？  
和美 あー、お茶。  
典香 もう、いいっちゃ。  
瑠璃 あ、ねえ、石の話は？  
典香 ああ。  
和美 石？  
瑠璃 そこにある。  
典香 ほら、うちのじいちゃんの。  
和美 ああ、あれね。  
瑠璃 じいちゃんがどうしたん？  
典香 うちのじいちゃんね、ばあちゃんのこと、すごい好きやっつて、  
瑠璃 うん。  
典香 何とか自分の嫁にしたいっち思いよったん。  
瑠璃 へえ。  
典香 で、色々したんやっつて。あーだ、こーだ、詳しくは知らんけど。  
和美 そので、あの石なんよ。  
瑠璃 石。  
典香 ちょっと話取らんでよ。  
和美 あ、ごめん。  
典香 あの石は、水野でずっと大事にされて来た石なん。  
瑠璃 ああ。  
典香 毎日石を洗いよったんやけど、  
瑠璃 うん。

典香 その仕事は、一番年下の、ばあちゃんの仕事やったん。  
瑠璃 なるほどね。  
典香 冬とか大変なわけ。これからの時期、寒いし、水は冷たいし。  
和美 実感がこもっとるね。  
典香 いや、マジで。それを、じいちゃんが、毎日手伝うようになったん。  
和美 好かれないけね。  
典香 まあ、そう。  
和美 下心。  
典香 そしたら、ひいじいちゃんが、あいつはいいねー、みたいになるんよ。  
瑠璃 おお。  
典香 ばあちゃんも、優しい人っち、そうだったんよ。  
和美 単純よね。  
瑠璃 それで？  
典香 それで、そつから、何か付き合うようになって、結婚するん。  
和美 フワっとしたね。  
典香 という石。  
瑠璃 それから、ずっと続けよつて、  
典香 いや、付き合うようになって、止めたん。  
瑠璃 え？そうなん？  
典香 うん。  
和美 もう魚は釣れたけね。エサはやらんの。  
瑠璃 わー。  
典香 (笑い) 言い方に悪意がある。  
和美 そういうことやろ？  
典香 そういうことやね。  
和美 男っちそんなもんよ。昔から。  
瑠璃 え、じゃあ、何で、  
典香 ん？  
瑠璃 また始めたん？石洗うの。  
典香 ばあちゃんが死んだけ。  
瑠璃 ああ。  
典香 一応、ほら、昔からある石やけさ。何かあるんやない？そういうの。  
瑠璃 そういふ。  
典香 分からんけど、何か、そういう。やつ。  
和美 普通、墓なんやないん？そういうのっち。  
典香 そうなんやけど、骨は、木田の墓に入っとうけね。  
瑠璃 そうよね。  
典香 ばあちゃんの周りは知らん木田だらけよ。木田のひいじいちゃんとか、  
和美 ああ。  
典香 うちも会った事ない、木田がごっそり。木田だらけ。  
瑠璃 (笑い) 言い方。  
和美 生き地獄やね。ああ、死んどるんか。  
典香 だけ、生まれ育った家やけね。ここにおるっち思っとんやない？  
瑠璃 分かる。

典香 分かる？  
瑠璃 何か、そういうの。  
典香 うちは全然分からんけど。  
和美 なのに、洗いよんよね。  
典香 そんなもんよ。

と、そこに萌の姿が外に見える。

和美 あら、萌やん。

萌 こんにちは。

和美 どしたん？

萌 そこ通ったら、見えたんて。

典香 剛の彼女。

瑠璃 ああ。こんにちは。

萌 こんにちは。

典香 このいとこの、るっちゃん。

萌 ああ。

和美 そんなところらんで、上がり、上がり。

典香 何だよ。

和美 帰って来たら、面白いやん。家の人が誰もおらんという。

萌 行けますか？

和美 行ける、行ける。

瑠璃 行ける？

萌が部屋に上がって来る。

和美は台所の方に消えて行く。

典香 元々、四国なんよ。

瑠璃 ああ。

典香 四国のどこやったっけ？

萌 徳島です。

典香 そうそう。四国の位置関係が、いまだ分からんけど。

瑠璃 こっちに引越して来たん？

萌 はい。親が離婚して。

瑠璃 ああ。

典香 もう、4年ぐらいなるよね？

萌 そうですね。

典香 全然抜けんね。方言。

萌 そうですかね。だいぶ。

典香 全然よ。違和感あるっちゃ。

萌 うちもです。

瑠璃 お互い様やね。

和美がコップを持って来て、

和美 わー、変な絵面。

典香 自分が望んだんやん。

和美 面白い、面白い。

瑠璃 タカちゃんとは、どれぐらい付き合っとん？

萌 3年です。

瑠璃 わ、長い。

典香 萌ちゃんが高校の時やったもんね。

萌 高2の時。

瑠璃 若い。

和美 そうなんよ。若いんよ。

典香 剛が高3で。

瑠璃 タカちゃんも、若いね。

典香 まだ、子どもよ。

和美 最近はどうなん？剛と。

萌 特に。

和美 全然遊びに連れてってくれんのうち。

典香 あいつもエサやらんタイプか。

和美 それ、それ。

典香 グズやね。

和美 言っちゃり。エサちようだいっち。

萌 エサ？

瑠璃 分かんよね、いきなり、そんなん言われても。

典香 遊びに連れてけ、っち言ったらいいんよ。

萌 なかなか。

瑠璃 言えんよね。

典香 おとなしいけね。萌ちゃん。

瑠璃 二人に比べたらね。

典香 そ？

和美 いいねー、恋バナ。

典香 さっきまで石の話をしよったとは思えんね。

瑠璃 ホントやね。

和美 石の話っち言ったら、急に渋いわ。

典香 ある意味、恋バナやけど。

和美 あんなん昔話よ。ムカバナ。はい。

和美がお茶を渡す。

萌 ありがとう。

典香 ムカバナとは言わんやろ。

瑠璃 言わんね。

和美 使っていいよ。じゃあ、初対面に乾杯。

典香 もう、何がなんだか。

和美 あー、楽しい。

律儀に乾杯をする、瑠璃子と萌。

瑠璃 よろしくお願いします。

萌 お願いします。

和美 何か、あれやね。

瑠璃 ン？

和美 瑠璃子の歓迎会みたい。

典香 ホント。

和美 じゃあ、やっぱ酒やん。

典香 背徳。

和美 今やないちゃ。今度。

瑠璃 そうやね。

和美 いつまでおるん？こっちに。

瑠璃 ンー、どうやろ。

和美 え？そんな感じ？

瑠璃 うん、特に決めてないんよ。

典香 気ままやね。

和美 もう、いっそ越して来たら？家もあるんやし。

典香 無茶苦茶。

和美 (瑠璃子に) ねえ？

典香 進が発狂しそうやけど。

和美 気にせんでいいよ、あんなん。

瑠璃 あんなんって。

和美 楽しいよ、田舎暮らし。(萌に) ね？

萌 あっちも田舎やったけ。

和美 あ、そっか。でも、楽しいやろ？こっち。

萌 はい。

典香 思いつきり、言わせとるし。

瑠璃 楽しいと思う。

和美 やろ？毎日、こうやって集まってさ。

典香 和美ちゃんが楽しいだけやん。

和美 うちだけやないっちゃ。みんな。

三人が帰って来る。

華 (外から) ただいまー。

和美 お。

瑠璃 (外に) おかえり。

和美 (外に) おかえり。

華 (外から) え、和ちゃん？

和美 (外に) そうよー。

華 (外から) 来とったん。

和美 (外に) うん。(三人に) どんな顔するやか。

典香 悪いわー。

華が部屋に入ってきて来る。

華 わ、何、これ。

和美 変な顔ふれやろ。

華 こんな揃って。(萌に) 萌ちゃんも。

萌 こんにちは。

藍子と剛が後から入ってきて来る。

瑠璃 おかえり。

藍子 めっちゃ、人がおる。

和美 わー、藍ちゃん、かわいくなつたねー。

藍子 (曖昧な返事)

瑠璃 和美ちゃん。昔、よう遊んでもらいよつたやろ。

藍子 和美ちゃん・・・

和美 ね、覚えてないよね。

藍子 すいません。

和美 全然、全然。

剛 何しよん？

萌 あの、

和美 井戸端会議よ。

剛 人ん家で。

萌 ごめんね。

華 みんなヒマなんやね。

和美 (華に答えて) ヒマなんよ。

典香 (立ち上がり) 和美ちゃんはね。

和美 あんたもやろ。

典香 うちは、続きせないけんのやけ。

瑠璃 あ、やる？

典香 さっさと終わらせんと。

瑠璃 そうやね。

藍子 まだやりよつたん。

瑠璃 話が盛り上がってさ。

藍子 ああ。

華 藍ちゃんもお茶飲むやろ？

藍子 ああ、うん。

華 (剛に) 手伝って。

剛 ああ。

華と剛が台所へ出て行く。

和美 (典香に) 手伝おうか？

典香 絶対やらんやん。  
和美 まあ、下心がないけね。  
典香 下心っちなうなー。  
瑠璃 あったら、するん？  
和美 あったらするやろ。

三人は縁側から外へ出て行く。騒がしく、お勤めをする三人。  
部屋には、藍子と萌が残される。

藍子 (苦笑) 楽しそうに。  
萌 そうですね。  
藍子 合っんやろうな。  
萌 合う？  
藍子 波長というが。  
萌 ああ。  
藍子 はい。

二人は、何となく外を眺めている。

藍子 ああ、大村さん、は、ここで何しよったんですか？  
萌 そこ、通っただけです。  
藍子 ああ、そうですか。  
萌 はい。

間。外からの声がよく聞こえる。

萌 得意になれなくて。  
藍子 え、誰が？  
萌 誰じゃなくて、ああいう、雰囲気。  
藍子 ああ、あれ。  
萌 一人っ子さんで。  
藍子 関係ないですよ。一人っ子。  
萌 そうですかね。  
藍子 私もダメです。ああいうの。  
萌 ああ。  
藍子 一緒ですね。  
萌 ……。

コップを持って、剛が入って来る。状況に一瞬、たじろぐ。

藍子 ああ、ありがと。  
剛 うん。  
藍子 ああ、いいよ。やるけ。  
剛 自分のもあるし。

藍子 タカちゃんのも入れちやる。  
剛 いいって。  
藍子 じゃあ、半分ぐらい。  
剛 半分ね、半分。  
藍子 ありがとう。  
剛 いいえ。

剛はお茶を注いでいる。

萌 一時いるんですか？  
藍子 え？  
萌 こっちに。  
藍子 ……  
萌 さつき。あの、お姉さんが。  
藍子 おるって？  
萌 はい。  
剛 あ、そうなん？

剛はお茶を藍子に渡す。

藍子 ありがとう。  
剛 じゃあ、さつき言いよった漫画、全部読めるんやない？  
藍子 そうやね。  
萌 漫画？  
剛 ほら、お前に借りとうやつ。  
萌 ああ。  
剛 見たいっち言いよったやん。  
藍子 大村さんのなんですか？  
剛 今、ここにあるけさ。持って来るよ。  
藍子 あ、行くよ。  
剛 二階は止めとったがいいけ。  
藍子 ああ。

剛が二階に上がって行く。

藍子 ごめんね。(萌に) すいません。  
萌 いえ。  
華 (外から) 何、バタバタしよんねちゃ。

藍子、間が持たずに、お茶に口をつける。  
萌もほとんど入っていなかったお茶を飲み干す。

藍子 あ、入れましょうか。  
華 大丈夫です。

藍子　　そうですね。  
華　　仲いいですね。いとこ。  
藍子　　ああ。どうですかね。

そこに華が、お茶請けのお菓子を持って、入って来る。

華　　こんなしかなかったけど、食べて。  
藍子　　ありがとう。  
華　　萌ちゃんも。  
萌　　すいません。

華が縁側に近づき、

華　　お菓子あるけ、食べて。  
和美　（外から）　やった、やった。  
典香　（外から）　ありがとう。  
瑠璃　（外から）　ありがとう。  
華　　終わった？  
典香　（外から）　今日はここまで。  
華　　お疲れ様。

華は神棚にお菓子を供える。  
三人が入って来て、

典香　　やっぱ人がおると、早いわ。  
和美　　やろ？  
典香　　るっちゃんのこと、言いよんよ。  
瑠璃　　役立って良かった。  
典香　　全然。  
和美　　わ、美味しそう。  
瑠璃　　ホント。  
華　　どうぞ。  
典香　　いただきます。  
和美　　萌も食べよう？  
萌　　もらってます。  
瑠璃　　お茶いる？  
典香　　いる、いる。  
和美　　うちも。

瑠璃子はお茶を注いでいる。

和美　　仕事の後は、美味しいね。  
典香　　もう、何も言うまい。  
瑠璃　　萌ちゃんは？

萌 あ、じゃあ。  
藍子 え？  
瑠璃 はいはい。

萌のコップを、瑠璃子が受け取る。

和美 藍ちゃんも食べよう？

藍子 あ、はい。

和美 よしよし。

典香 誰なん。

華 こんなにおるなら、何か買ってくれば良かったね。

典香 十分よ。美味しい。

華 なら。

和美 ねえ、今度さ、みんなで飲もうや。

典香 まだ言いよった。

瑠璃 好きやね。(萌にコップを渡し) はい。

萌 すいません。

和美 せっかく二人来とるんやし。歓迎会。

華 そうね。

和美 しばらくおるみたいやけさ。

藍子 (ポツリと) しばらく。

華 あ、そうなん。

瑠璃 良かった？

華 うちは全然よ。

瑠璃 ありがと。

華 何もしてあげれんけど。

瑠璃 いやいや。(藍子に) ね。

藍子 あ、うん。

和美 じゃあ、決定やね。わ、相当楽しみ。

瑠璃 うん。

和美 萌もこっそり許すけ。

典香 ダメやろ。

と、華が急に叫ぶ。足元に虫が出たようである。

華 わ、きや。虫。

瑠璃 え、どこ？

場がざわつく。

華 そっち行った。

和美 え、どっち。

典香 どこどこ？

華 あれ、分からんくなった。

和美 わー、それが一番嫌。  
瑠璃 大きい？  
華 そこそこ。  
和美 どこ？萌、それは？  
萌 違います。  
典香 何？ムカデ？  
華 違うと思うけど、何やろう。  
瑠璃 あ、そこ。藍の。  
藍子 え、え、

藍子はバタバタと逃げる。

瑠璃 あっち（台所の方）行った。  
典香 逃がしたら、増えるよ。  
華 それは嫌。  
和美 典、いけ。  
典香 何で、うち？  
和美 強いぞ、典。  
瑠璃 あ、逃げる、逃げる。  
華 剛ー。  
典香 もう。

典香を先頭に、華と和美が部屋の外へ出て行く。  
襖の辺りで戦況を見守る、瑠璃子。  
外は相変わらず、騒がしくしている。

藍子 虫はダメなんやん。  
瑠璃 え？  
藍子 （笑い）入って来たら。

外で、退治をしたであろう、パンという音。

藍子 殺される。変なの。  
瑠璃 藍？

退治した虫を乗せ、三人が入って来て、

典香 間一髪やったね。  
和美 何が？  
華 ありがと。  
典香 それ、土に返れ。

縁側から虫を投げ捨てる。何故か、それを全員が見ている。  
と、そこに大量の漫画本を持って、剛が入って来る。

剛 何、騒ぎよん？

瑠璃 ああ。

華 今頃。

和美 役に立たんやつやね。

典香 (ほぼ同時に) ホント。

剛 え？

華 それ、何？

剛 ああ。ちよっと、姉貴の部屋、借りるけ。

華 姉貴？

剛 ここ人が多いけ、あっち行こ。

藍子 あ、うん。

華 藍ちゃんが見るん？

剛 そうそつ。

華 なら、あれやけど。

剛が部屋を後にし、華の部屋に入ったようである。

藍子 ごめんね。

華 ああ、いいよ、いいよ。

剛(外から) こっち。

藍子も部屋を出て行く。

華 姉貴とか。初めて言われた。

典香 はしゃいどるなー。

華 (苦笑) ね。

和美 ちよっと、綺麗なお姉さんが来ると、あれやけ。

典香 じゃあ、うちにも、はしゃげ。

和美 それはない。

華 (萌に) ごめんね、ほったらかしで。

萌 いえ。

和美 ホントよ、あいつ。

典香 エサやらんタイプやな。

萌 大丈夫です。

和美 一回、ビシっと言った方がいいよ。

萌 いや、

和美 いっそ、もうね、パーン(平手打ち) っち。

典香 せんせん。

萌 パーン。

和美 お、ちよっと、やる気？

華 せんって。

和美 よし、うちがやっちらうか？

典香 意味が分からんくなる。

華 昔っから、なついとったけ。(瑠璃子に)ね。  
瑠璃 うん。

華 嬉しいんよ。

和美 浮気とかしたら、フルボッコやけね。

萌 浮気。

華 いとこに、ないちゃ。

和美 いやいや、分からんよ。男とか。

典香 出た、出た。

華 不安にさせて、どうするん？

和美 うちの経験から言うとね、いとこ同士っち言うのは、

典香 昼ドラの見過ぎ。

和美 昼ドラは好き。

典香 楽しまんの。

和美 楽しんでないちゃ。

典香 いやいや、

和美 うちはね、男に泣かされんように、心配しとるんよ。

華 心配か。

和美 そう、心配なんよ。あ、心配っち言うのは、

と、家の黒電話が鳴る。

華 ああ、はいはい。

華が部屋の外へ出て行く。黒電話の音が消える。

典香 じゃあ、そろそろ帰ろうかね。

瑠璃 あ、うん。

典香 長居しても悪いし。

和美 何で、うちを見た？

典香 萌ちゃんは？

萌 私も。

典香 じゃあ、一緒に帰ろ。

瑠璃 気をつけて。

典香 るっちゃん、ありがとね。

瑠璃 え？

典香 手伝ってくれて。

瑠璃 明日も手伝うよ。

和美 下心が。

瑠璃 ないない。

典香 気が向いたらでいいけ。

瑠璃 うん。

と、外から華の声。

華（外から） るっちゃん、おいちゃんから。  
瑠璃 ああ、うん。じゃ、また明日。  
典香 ん。

瑠璃子が部屋を出て行く。

和美 おいちゃんか。

典香 覚えとる？

和美 全然。顔も出て来ん。

典香 うちも。（笑い）何か、影が薄いんよね。

和美 こっちの人やないしね。

典香 そっか。そうやね。

和美 おばちゃんは出て来るもん。顔。若いまま。

典香 ー、おほろげ。

和美 洋子ちゃん。

典香 あれ、どっかで聞いたな、それ。

典香と萌は外へ出て行くこうとする。  
部屋に華が入って来る。

華 あ、帰る？

典香 うん。また明日。

華 和美ちゃんは？

和美 ボチボチ。

華 うん。

典香 ボチボチにしーよ。

和美 分かつとう。

華 気をつけてね。

典香 すぐ、そこちや。

華 萌ちゃんも。

萌 お邪魔しました。

典香 （二階に）じゃあ、ね。

萌と典香が出て行く。

華 和美ちゃんは？

和美 ん？

華 帰らんで、大丈夫なん？

和美 大丈夫、大丈夫。

華 カケくんは？

和美 おかんが見よる。

華 それ、大丈夫なん？

和美 娘より孫やけ。

華 かわいいんやろうね。

和美 溺愛で、困ったもんよ。  
華 そうやね。

和美は立ち上がり、

和美 ちょっと、ゲームでもせん？  
華 (笑い) ゲーム？  
和美 家に帰っても、ヒマなんよ。  
華 うっそー。  
和美 え？

和美は神棚からゲーム一式を取り出す。  
華は、静かに襖を閉める。

華 そんなヒマでもなくせに。  
和美 ヒマよ、ヒマ。  
華 お金は賭けんよ。  
和美 うん。  
華 うちからやるよ。  
和美 いいよ。

華はサイコロを投げ入れる。チンチロリン。

和美 いい音。  
華 ね。  
和美 (サイコロを見て) 目無し。  
華 うん。

華は器から、サイコロを取り出す。

和美 さっき言った心配っち、そういうことやないけ。  
華 (笑い) 分かつとうよ。  
和美 いい男もおるんよ、多分。  
華 分かつとう。  
和美 まあ、うちは、いい男に当たらんかったけど。  
華 それも、分かつとう。  
和美 だけ、離婚したんやけど。  
華 分かつとう。  
和美 3年で、こっちに帰って来たんやけど。  
華 そんな早かったんか。  
和美 そんな早かったんよ。  
華 帰れる場所があって、良かったね。

華はサイコロを投げ入れる。チンチロリン。

和美 ん？

華 (サイコロを見て) 目無し。

和美 ああ。(仕切り直して) うちのことは、よくて。  
華 うん。

華は器から、サイコロを取り出す。

和美 あっちに返事は？

華 しとらん。

和美 二人には？

華 言っていない。

和美 1ミリメートルも進んでないやん。

華 ホント、世話焼きやね。

和美 分かってっつて、うちに言ったんやろ？

華 そうやね。

和美 ほら。

華 周りにおらんけ。結婚した人。

和美 失敗もしたけど。

華 ね、相手間違えた。

和美 そんな言わんでよ。

華 うそ、うそ。

和美 とりあえず、二人に、

華 いとこが来たけね。

和美 関係ないやん。

華 兄ちゃんが、あれやし。

和美 ああ。

華 二人が帰ったら、

華はサイコロを投げ入れる。チンチロリン。

華 ね。(サイコロを見て) ダメか。次、和美ちゃん。  
和美 うん。

和美は器から、サイコロを取り出す。

和美 一時、おるっちよ。

華 じゃあ、その一時の後に。

和美 ここに住むかもよ。

華 え？

和美 いや、そんなことは言っていないけど。

華 ああ。

和美 うちが冗談で言っただけやけど。

和美はサイコロを投げ入れる。チンチロリン。

華 何だよ。

和美 (サイコロを見て) また目無し。  
全然揃わんね。

和美は器から、サイコロを取り出す。

和美 うちが言うのも何やけど、

華 うん。

和美 出会ってさ、付き合って、何年も経って、それでも一緒におるなら、結婚する  
んが普通よ。

華 分かつとるんよ。

和美 普通。自然な流れ。

和美はサイコロを投げ入れる。チンチロリン。

華 子どもみたいなこと言っている？

和美 うん。

華 分かつとんやけど、何か、嫌なん。

和美 何か、ね。

和美が器から、サイコロを取り出す。

華 頭では分かつとつてもね・・・何か、なんよ。

和美 診断の結果、マリッジブルーですな。

華 え、そんなやつ？

和美 みんな通る道。

華 和美ちゃんも？

和美 うちは・・・なかったけど。

華 じゃあ、良かった、通って。

和美 どういう意味？

華 自分でも、何でそう思うか分からん。

和美 ふーん。

華 普通に、好きやし。

和美 ひゅー。

華 まさか冷やかすとは。

和美 条件反射。

華 困ったもんやね。

和美 ま、何ち言っても、自分のことやけね。

華 うん。

和美 自分が思うようにしたら、いいよ。大事なことやけ。

華 そやね。

和美 いっぱい、悩め。

和美がサイコロを投げ入れる。チンチロリン。

和美 あー、もう、全然ダメやん。

華 こんなにやって。

和美 一回も揃わんっち、何なん。

華 ホントやね。

和美 帰れっちことやね。これは。

華 かもね。

和美 (ゲームに) 言われんでも、帰りますよ。

華 八つ当たり。

和美 じゃ、飲み会よろしくね。

華 分かった。

和美 わー、出て行ったら、こんなもなくなるんか。

華 そうよ。

和美 なら、出ること勧めん方がいいんやな。

華 何だよ。

和美 (笑い) じゃ、ね。

華 気をつけて。

和美 ほいほい。

和美は縁側から外へ出て行く。

華はテーブルの上のコップを片付けていると、

華 あ。

華は縁側から外を覗き、部屋を出て行くこうとする。と、そこに瑠璃子が立っているようである。

華 わ、どしたん。

瑠璃 (外から) あ、ごめん。

華 部屋に入れんかった？

瑠璃子は部屋に入って来て、

瑠璃 (苦笑) ちょっと。何か、あれかなっち思っ

華 全然良かったのに。

瑠璃 うん。

華 あー・・・

瑠璃 え？

華 いいや。ゆっくりしとって。

瑠璃 何？

華 鍋、返すの忘れとったけ。

瑠璃 ああ。

華 ちよっと出て来るね。  
瑠璃 あ、うん。

華が部屋を出て行く。一人になる瑠璃子。  
テーブルの上のサイコロを投げ入れる。チンチロリン。  
縁側に近づき、腰をかけ、外を眺めながら、俯く。

と、部屋の向こうに、進がこっそりと現れる。  
ふと部屋を覗き込むと、俯く瑠璃子の姿が見え、立ち止まる。  
しばらく、眺めていたが、一步、部屋の中に足を踏み入れる。

進 あ、の。

振り返り、瑠璃子。

瑠璃 進くん。

進 どしたん。

瑠璃 久しぶり。

進 あ・・・うん。

瑠璃 どしたん？

進 俺が、それ、聞いたん、やけど。

瑠璃 ああ、そうやったね。(外を眺め)石、見よったん。

進 ああ。

瑠璃 そしたらね。何か、頭がグジャグジャっちなつて、

進 うん。

瑠璃 で、今。

進 全然、分からん、けど。

瑠璃 私もね。子どもなんよ。

進 私、も。

瑠璃 何か、嫌なん。これ、何ブルーっち言うんやろ。

進 会話に、なつてない。

瑠璃 ホントやね。

進 ・・・

瑠璃 おいちゃんが亡くなった時。どうやった？

進 どうやったっち、何が？

瑠璃 悲しかった？

進 覚えて、ない。

瑠璃 もう忘れた？

進 死んで7年やし。

瑠璃 7年か。

進 悲しいん？

瑠璃 私はね、どうなんやか。

進 ・・・

瑠璃 何しに来たんやろ。ここに。

進 俺は、知らん。  
瑠璃 ね。

進 何しに、来たん？

瑠璃 お母さん、とこに来た。

進 生まれた、家やけ？

瑠璃 まだね、おる気がするんよ。ここに。

進 おらんよ。

瑠璃 分かつとうよ。

進 ……俺に、言われたくないやろうけど。

瑠璃 ……。

進 受け入れんと。

瑠璃 進くんみたいに？

進 俺？

瑠璃 一步、ここに入ってくれた。

進 ……ああ。

瑠璃 昔と変わらんで、優しいね。

と、部屋の外に藍子が現れる。

藍子 進くん？

進 あ、お。

進が慌てて、トイレに駆け込んで行く。

藍子 先に行かれた。

藍子は部屋に入ってきて、

藍子 二人でおったん？

瑠璃 うん。

藍子 何？出てけっち？

瑠璃 全然。

藍子 そうなん。

瑠璃 うん。

少しの間。

藍子 さっきの電話、

瑠璃 お父さんから。

藍子 何て？

瑠璃 (笑い) いつ帰って来るかっち。

藍子 何て言ったん？

瑠璃 もう少しっち。

藍子 いつまでおるん？

瑠璃 だけ、もう少し。  
藍子 もう少しっち、いつなん？  
瑠璃 もう少しはもう少しよ。  
藍子 だけ、それは、いつなん？  
瑠璃 . . .  
藍子 進くんだったって、迷惑しとるんやろうし。  
瑠璃 そうやね。  
藍子 華ちゃんだったって、タカちゃんだったって。  
瑠璃 そうかもね。  
藍子 みんな優しいけ、何も言わんけど。思っとるちゃ。  
瑠璃 うん。  
藍子 うんやなくて、  
瑠璃 あんたもやろ？  
藍子 え？  
瑠璃 迷惑っち思っとるんやろ？  
藍子 私は、  
瑠璃 こんなとこまで連れて来て。  
藍子 ついて来たん。  
瑠璃 私が心配でやろ？  
藍子 . . . そうよ。付き添い。  
瑠璃 付き添いっち、病気やないんやけ。  
藍子 みたいなもんやん。  
瑠璃 . . .  
藍子 みたいな。  
瑠璃 病気。  
藍子 拜んでみたり、お供えしてみたり、洗ってみたり、止めてよ。  
瑠璃 それっち病気？  
藍子 病気やないけど、  
瑠璃 拜んだり、お供えしたり、洗ったり、するの。  
藍子 あの石は、お母さんやないんやけ。  
瑠璃 知っとうよ。  
藍子 お母さんは、死んだんやけ。  
瑠璃 分かっとうよ。  
藍子 分かっとうんならさ、  
瑠璃 ごめんね。  
藍子 どこ行くん？  
瑠璃 ちよっと、散歩。  
藍子 いや。  
瑠璃 少し、一人にして。

瑠璃子が外へ出て行く。

何気なく、テーブルの上のサイコロを投げ入れる。チンチロリン。  
縁側に近づき、外を眺めていると、外で足音がする。

瑠璃子が出て行ったようである。足音が遠くなつて行く。  
藍子はその場に腰をかけ、俯く。

と、トイレから出てきた、進が現れる。  
恐る恐る部屋を覗き込むと、俯く藍子の姿が見える。  
鼻で笑う。その音に気付き、振り向く藍子。

藍子

ああ。

進

あ、．．．うん。

藍子

何で笑ったん？

進

いや。

藍子

散歩に行ったよ。

進

別に。

藍子は外を眺めている。

進は、一歩、部屋の中に入って来る。

進 石、見よん？

藍子 見てない。

進 ．．．。

藍子 何か、空がすごい青いなっち思つて。

進 田舎やけ。

藍子 青過ぎて、気がおかしくなりそう。

進 ．．．そう、かもね。

藍子 私、何しに来たんやろ。

進 (鼻で笑い) 知らんよ。

藍子 そうよね。

進 何しに、来たん？

藍子 何やったんやろ。姉ちゃんが心配やったんやけど。

進 ああ。

藍子 何か．．．(笑い) こっち来て、どんどん元気になって。

進 うん。

藍子 あっちにおつた時と、全然違うんやけ。

進 ．．．。

藍子 あんなん見たら、ここにおるんかもっち思つてしまふやん。お母さん。

進 おらんよ。

藍子 分かつとうよ。

進 うん。

藍子 あー。何しよんやろ、私。一人で。

進 帰ったら？

藍子 え、

進 俺が言つと、あれやけど。先に。

藍子 迷惑？

進 そうやなくて。

藍子 ……。  
進 何か。うん。  
藍子 華ちゃんが、  
進 華？  
藍子 おらんくなったら、どうする？  
進 何で？  
藍子 例えば、結婚とか。  
進 どういうこと？  
藍子 例えば。  
進 どうするの、意味が、分かん。  
華（外から） 兄ちゃん？  
進 あ、お。

逃げるように部屋を出て行く、進。  
華は、縁側から部屋の中に入って来る。

華 え？今、おったよね。ここに。一緒に。  
藍子 見たやろ。  
華 お化けとかやないよね。  
藍子 何、それ。  
華 え、どういうこと？  
藍子 さあ。何でやろう。  
華 うん。  
藍子 思うところがあるんかもね。  
華 何？  
藍子 華ちゃんが分からんのやったら、私も分からん。  
華 いや、つか、うちの顔見て逃げるっち、おかしいやろ。  
藍子 そうやね。  
華 おかしいよ。  
藍子 恥ずかしいんやないやか？  
華 え？  
藍子 そういうの、見られるの。  
華 そういうの。  
藍子 そういう、何て言っん？こう（飛び越す、のような動き）あの、  
華 （繰り返し動きに合わせて）ジャンプ、ジャンプ、  
藍子 違っつて。こう（飛び越す、のような動き）  
華 飛び出す、  
藍子 ああ、そんな、飛び込むというか、  
華 踏み出す、  
藍子 踏み切る、  
華 乗り出す、  
藍子 乗り越えるみたいな、  
華 何で、それが恥ずかしいん？  
藍子 何でっち……兄弟やけ？

華 え？  
藍子 ほら、距離が近いけさ。何か。逆に。  
華 そりゃ、近いけど。  
藍子 難しいよね、兄弟っち。距離感が。  
華 (二階に) 意味分からん。  
藍子 分からんっち、華ちゃんもやん。  
華 え？  
藍子 言わんままやろ？  
華 それは、何か、タイミングが。  
藍子 一緒よ。  
華 一緒か。  
藍子 部屋、もう少し借りてもいい？  
華 いいよ。  
藍子 さっさと読んでしまわんと。さっさと。  
華 漫画？  
藍子 せっかくやけ、読み終わりたいしね。

藍子が部屋の外へ出て行く。  
華はテーブルの上のサイコロゲームを神棚に乗せると、  
部屋から出て行く。

### 3.

瑠璃子は鼻歌交じりで、取り込んだ洗濯物を持ち、縁側から入って来る。  
部屋に入ると、二人分の洗濯物を几帳面に畳み始める。  
と、一升瓶を持った和美と翔が入って来る。

和美 よっこいしょ。  
瑠璃 ああ、え、和美ちゃんの子？  
和美 おかんが出掛けとってさ。  
瑠璃 そうなんやん。(翔に) こんにちは。  
翔 こんにちは。  
瑠璃 偉いね。  
和美 普通、普通。  
翔 母ちゃん、ゲームしたい。  
和美 ああ。(瑠璃子に) 剛おる？  
瑠璃 うん。  
和美 (二階に) 剛ー。

和美は神棚から、ゲーム一式を取り出す。

剛 (二階から) あー。  
和美 (二階に) ちよ、来て。  
剛 (二階から) 何なん。

剛が二階から降りてくる音。

翔 (二階に) 剛ー。ゲーム。

瑠璃 呼び捨て。

和美 ね、真似するやる。

剛 (外から) お、翔？

和美 友達やけ。

瑠璃 友達。

和美 精神年齢が変わらんけね。

瑠璃 それは言い過ぎやる。

和美 全然。

剛 おっす。

翔 やろうや。

剛 よし。

剛と翔はゲームを始める。

剛 先いぞ。

瑠璃 子ども好きなん？

剛 子どもっちいうか、翔が、かな。

瑠璃 意外。

剛 そう？

翔がサイコロを投げ入れる。チンチロリン。外に飛び出す。

瑠璃 そういうイメージがない。

和美 末っ子やけね。

瑠璃 ああ、そうか。

和美 ないよね、イメージが。

剛 めっちゃめっちゃ遊ぶよ。

瑠璃 へえ。

翔がサイコロを手に取る。と、

剛 (翔に) しょんべんやったやるうが。

翔 いいやん。

剛 ダメちや。

翔 ケチ。

瑠璃 (笑い) 精神年齢。

和美 そういうのっち、順番よね。

瑠璃 順番？

和美 遊んでもらって、遊んであげて、次は子どもが遊んでもらって、  
瑠璃 そうやね。

和美 永久ループよ。永久。

剛がサイコロを投げ入れる。チンチロリン。

和美 洗濯もん、したん？

瑠璃 服、そんなに持って来てなかったけさ。

和美 ホント、気ままなんやね。

瑠璃 そうなんよ。

和美 いいねー、そんな旅がしたいわ。(翔に) したいわー。

翔は聞いていない。

瑠璃 (苦笑) どうやら。

和美 気ままに来れるんは、この家ぐらいよ。徒歩5分。

瑠璃 子どもがおるとね。

和美 手が離れるまでは、仕方ないね。

瑠璃 手が離れる。

和美 あー、かなり先の話やな。

和美 そうやね。

和美 うちの親とか、すぐ、あっちこっち行くけ。

瑠璃 ああ。

和美 それこそ、気ままに。

瑠璃 手が離れたんやね。

剛 うっしー。

和美 (剛を気にして) 一仕事が終わったっ感じよ。多分。

瑠璃 ね。

和美 第二の人生。楽しそうちゃ。

剛 行け、行け。

瑠璃 楽しいんやろうね。

和美 好きに旅行して、たまに庭いじって、で、孫かわいがって、

剛 わー。

和美 あーもう。しゃーしーね。あっちでやり。

剛 怒られたやねえか。

翔 剛のせいやん。

剛 継子のくせに。二人もせん？

和美 せんっちゃ。

剛 何人でも出来るけさ、これ。

和美 せん。(あっち行けの意味) ほら。

翔 あっち行こ。

剛 あ、うん。

翔に連れられて、剛が部屋を出て行く。

和美 何なん。もう。しゃーしー。

瑠璃 (笑っている)  
和美 あ、(縁側に置いていた) お酒持って来たよ。  
瑠璃 でか。  
和美 人数もおるし。  
瑠璃 にしても。  
和美 まだ始めんのかね? 歓迎会?  
瑠璃 早いやる。日も落ちてないし。  
和美 (外を眺め) お天道さんに笑われるね。  
瑠璃 みんなもまだやし。  
和美 そうね。

和美は瑠璃子の服を畳む姿を眺めている。

和美 几帳面に畳むねー。  
瑠璃 え、そう?  
和美 うちとか、チャツチャーよ。  
瑠璃 何、それ。  
和美 こう、(空中で) チャツチャーっち、着ればいいんやし。  
瑠璃 そうなんやけど。何かね。  
和美 いやいや。  
瑠璃 慣れかね?  
和美 あれよ。洋子ちゃんの躰がいいんよ。  
瑠璃 ちゃん。  
和美 洋子ちゃん。  
瑠璃 お母さんが、ちゃん付けされると、変な感じ。  
和美 翔からしたら、(自分を指して) 和美ちゃんよ。  
瑠璃 ああ、そうか。そうやんね。  
和美 それこそ、(向こうの部屋を指し) 二人とあんま変わらんのやけ。年の差。  
瑠璃 和美ちゃんっち、何歳?  
和美 年を聞く。  
瑠璃 ああ。いやいや、隠さんでもいいやん。  
和美 想像に任せるよ。  
瑠璃 えー。

瑠璃子は向こうの部屋のある方を見ている。

和美 結婚するまで、よう遊んでもらいよった。  
瑠璃 お母さんのこと、覚えとるん?  
和美 結婚するまで。  
瑠璃 私が生まれる前。  
和美 そう。瑠璃子が生まれる前。  
瑠璃 ちゃんと、覚えてくれとんやん。  
和美 ちゃんとか、どうか分からんけど。  
瑠璃 ああ。

和美 二人に会うまで、忘れとったけど。  
瑠璃 忘れとったん？  
和美 いや、忘れるは、違うね。忘れてはないんやけ。  
瑠璃 ……  
和美 思い出さなかった、っち言うのも変やけど。機会がないやん、そっいう。  
瑠璃 そうなんよね。  
和美 え、  
瑠璃 忘れたくないんよ。ずっとね、思っときたいんよ。

一瞬の間。静かになり、隣の部屋の、チンチロリンの音がよく聞こえる。

和美 洋子ちゃんは、さ・・・あの。  
瑠璃 去年。うん。  
和美 え。あ、そうなん。  
瑠璃 うん。  
和美 そうやったんやん。  
瑠璃 うん。  
和美 (無理に笑い) 全然、そっいのっち、こっちまで来んのやね。  
瑠璃 ね。  
和美 ホント、水野は早いわ。  
瑠璃 家系なんやろうね。  
和美 何て言うん、あー、こっいう時の、言葉を持つとらんわ。  
瑠璃 いいよ、全然、普通で。  
和美 いや、  
瑠璃 昨日、今日、の話やないんやし。  
和美 まあ、  
瑠璃 一周忌も、初盆も終わって、もうみんな普通に生活をしようやけ。  
和美 みんな。  
瑠璃 そ、みんな。  
和美 瑠璃子は？  
瑠璃 私は。どうやろ。ちよっとだけ、置いてかれとるかも。  
和美 そっか。  
瑠璃 お父さんとか、先頭集団は早かったよ。走り出すの。  
和美 責任があるけね。  
瑠璃 もうそろそろ、見えんくなるんやないんやか、っち思うぐらい。  
和美 瑠璃子から？  
瑠璃 止まった、お母さんからも。  
和美 ああ。  
瑠璃 離れたくないん。  
和美 だけ、こっちに来たん？  
瑠璃 とか、別にそんなこと考えとったわけやないんやけどね。  
和美 だけ、置いてかれとん？  
瑠璃 今の自分を、都合よく考えてみた。  
和美 うん。

瑠璃 うん。

和美 こないださ、運動会があったんよ。翔の。

瑠璃 え、急やね。

和美 うちと、親と応援に行ったん。

瑠璃 うん。

和美 こう、真ん中でね、グラウンドで、翔が走りようわけ、で、うちはさ、その周

りを、あっち行ったり、こっち行ったりするん、カメラ持って。そしたら、親が、あんたはよう動くねっち、持って来た、小さい折り畳みのいすに座って、プログラムを眺めよってさ、お昼になって、みんなで弁当広げて、ご飯食べたら、また昼から、翔は走り回って、うちはカメラを持って、二人はいすに座って、よっぱ、よう動くねっち言いよって、でも、それは、一個前は、親がしよって、うちをカメラで取りよって、そしたら、次はうちがあそこに座るんかなとか、思ったら、こう、よっぱりさういうのも、遊んでもらったのと同じで、順番で、自分がグルグルち回らんと、どっかで、それは、それこそ止まってしまつて、それが止まったら、親とかじいちゃん、ばあちゃんとか、その前の人とか、そのまだ前の人とかは、何て言うか、何だよ、うち思うんやないかつち、今思った。

瑠璃 今。

和美 瑠璃子の話聞いて。途中で、よく分からなくなつたけど。

瑠璃 ううん。

和美 何ち言うか、今の走りよる場所は、すでに親が通過してつた場所なんやつて、

(笑い) こんなんでも、親になつて思う、時もある。

瑠璃 私だけが、ここに置いてかれとるん？

和美 どうやろうね。藍ちゃんもなんやない？

瑠璃 藍？

和美 一緒に、ここに来た。

瑠璃 あの子は、私の付き添いで来ただけ。

和美 でも、付き添つとるんやろ？ 伴走。

瑠璃 ああ。

和美 まあ、実際に走りよるわけやないんやけど。

瑠璃 そうやね。

和美 あー、いっぱいしゃべったら、喉渴いた。瑠璃子はいる？

瑠璃 大丈夫。

和美 ン。

瑠璃 ありがと。

和美 ン。

和美が外へ出て行く。

瑠璃子は、ため息とともに、テーブルに突つ伏す。

剛 (外から) 何、話よつたん？

和美 (外から) ムカバナよ。ムカバナ。

剛 (外から) 何、それ。

和美 (外から) ムカバナ。

和美は突っ伏したまま、鼻で笑い、ゆっくりと外を眺める。

和美（外から） あら、華おったん？

華（外から） 準備しよんよ。

剛（外から） ねえ。

和美（外から） うるさいね。

剛（外から） いっつも教えてくれんやん。

と、部屋の向こう側に藍子の姿が見える。

藍子 姉ちゃん。

瑠璃 ……どした？

藍子 私、もうすぐ、漫画読み終わるけ。

瑠璃 そっか。

藍子 うん。

瑠璃 うん。

藍子 そんだけ。

瑠璃 分かった。

瑠璃子はトイレに入って行く。

瑠璃子は立ち上がり、縁側に進み、石を眺めている。

華 ちよっと、買出しに行ってくるけど、

瑠璃 ああ。

華 一緒に行く？

瑠璃 ちよっと。散歩して来てもいい？

華 ああ、うん。

和美 気をつけてね。

瑠璃 ありがとう。

瑠璃子が縁側から外へ出て行く。

和美 天気がいいけね。

華 そうやね。

和美 こういう日は、外で体動かさんと。うちのお母さんみたいに。

華 動かさんが、言う。

和美 そう。うちは動かさないので。

華 一緒に行く？買い物。

和美 一旦、家に帰るわ。

華 今、来たんに？

和美 （少し笑って）ちよっとね。また後で来るけ。

華 そうなん。

ゲーム一式を持った剛と翔が部屋に入って来る。

剛 片付けました。

華 よしよし。

和美 翔、帰るよ。

翔 うん。

剛 もう帰るん？

和美 何？寂しいん？

剛 全然。

和美 かわいくないねー。あ、お酒持って来たけ。

華 ありがと。じゃ、また後で。

和美 はいはい。

華 気をつけてね。

和美と翔が縁側から外へ出て行く。

華 一緒に買い物行く？

剛 留守番しとく。

華 あ、そ。

一升瓶を持って、華が外へ出て行く。

一人になった剛は縁側で、ポケットからタバコを取り出す。

火をつけ、外を眺めながら、タバコの煙を燻らせる。

と、部屋にトイレから出てきた、藍子が入って来る。

剛 あ。

藍子 え、タカちゃん、タバコ吸うん？

剛 ほら、もう二十歳やけ。

藍子 別に義務やないし。

剛 違法やない、という意味で。

藍子 そこにさ、灰皿があるけ、

剛 ああ。

藍子 とは思いよったんやけど。

剛 俺やね。俺しかおらんけ。

藍子 知らんかった。

剛 そんな、数吸わんけね。

藍子 そうよね。

剛 家やと、特に。二人がうるさいけ。

藍子 嫌いなん？

剛 相当。親父がヘビーやったけさ。

藍子 そうやったね。

剛 反面教師というか、これ（タバコ）で死んだみたいな。

藍子 そう思っとんやん。

剛 まあ、体に良くないしね。

藍子 止めろっち言われんの？  
剛 言われるよ。いっつも。  
藍子 でも、止めんのやん。  
剛 親父の、何か、そういうのが、違うんやろうね。小さかったし、俺。  
藍子 ああ。  
剛 親父が死んだの、早かったけね。

剛がタバコを吸う。煙が昇っていく。

藍子 姉ちゃん、散歩行ったん？  
剛 聞こえとった？  
藍子 華ちゃんは買出し。  
剛 (笑い) 聞こえるよね。  
藍子 田舎の家つち、筒抜けやね。  
剛 丸聞こえの、丸見え。  
藍子 ホント。  
剛 困ったもんよ。

藍子は剛の隣に座り、

藍子 ねえ。  
剛 え、何？  
藍子 タバコ、一本ちようだい。  
剛 え？  
藍子 久しぶりに吸いたくなかった。  
剛 吸いよったん？  
藍子 うん、ちよっと。  
剛 あ、うん。いいけど。

剛は箱からタバコを一本取り出し、藍子に渡す。  
藍子はタバコを咥え、ライターを受け取り、火をつける。  
藍子はタバコを吹かし、煙を燻らせる。それを見て、剛も一口、吸う。

藍子 吸っちゃった。  
剛 吸ったね。  
藍子 あー、吸っちゃった。

藍子が、タバコに口をつける。

剛 違和感がある。  
藍子 私も。二人で並んで。  
剛 いや、藍ちゃんが吸うのが。  
藍子 そう？  
剛 すっごい、違和感。

藍子 私だって、そうよ。

剛 まあ、そうやね。

藍子 お互い様。

剛 うん。

藍子 ホント、久しぶり。

剛 どれくらいぶり？

藍子 忘れた。ぐらい。

剛 何で止めたん？

藍子 (自然と石を見て) お母さんが嫌いやったけね。

剛 ああ。おばちゃん。

藍子 隠しとったんやけどね、バレたんよ。

剛 ああ。

藍子 バレルよね、一緒に住んどるんやし。

剛 どうなったん？

藍子 絶句っち、あれを言うんやね。初めて見た。

剛 絶句。

藍子 何で嫌いやったと思う？

剛 え、分からん。何で？

藍子 おいちゃんが反面教師。

剛 親父？

藍子 ああなったら、ダメだっち。そういう。

剛 どんだけなん。影響力。

藍子 そんなだけ近い存在やったんよ。二人兄弟。

剛 そういうことやね。

藍子 うん。

剛 じゃあ。何で吸うようになったん？

藍子 え、何でっち。ありきたりよ。

剛 友達に勧められて、とか。

藍子 タカちゃんはそうなん？

剛 俺は、まあ、そんな感じ。

藍子 大体、真似よね。こんなん。

剛 藍ちゃんは？

藍子 彼氏が吸いよったん。

剛 ああ。そっち。

藍子 うん。

剛 彼氏。

藍子 時間が経つと、色々あるね。

剛は一度、煙を吸い込み、灰皿にタバコをこすりつける。

剛 わー、何やろ。これ。

藍子 え、何？

剛 吸いよるのを見た時からの、この、モヤモヤ感。

藍子 何それ。

剛 わー、何だこれ。

畳の上で悶える、剛。

藍子 どしたん。

剛 だって、そうなんよ。時間は経とうわけやし。青春をくぐり抜けたわけやし。

藍子 青春？

剛 タバコも吸うし、止めるし、彼氏と付き合っし、別れるし。

藍子 はい？

剛 俺もそうやし。俺は、タバコ、止めてないけど。

藍子 ちよっと。

剛 そんなだけの時間が、どっちも経つとるわけなんよ。そうなんよ。

藍子 どういうこと？

剛 そうなんやけどよ。

剛の奇妙な動きが止まる。

藍子はタバコを消し、縁側から部屋の中に少しだけ入って来る。

藍子 何か・・・大丈夫？

剛 それはさ、そういうのはさ、ずっと、綺麗なままやったんよ。勝手に。

藍子 そういうの？

剛 多分ね、初恋やったんよ。

藍子 え？

剛 多分。藍ちゃんが。

藍子 (笑い) えー？

剛 えー、やなくて、マジで。

藍子 ありがと。カミングアウト。

剛 去年会った時、藍ちゃんの顔見て、思い出して。

藍子 何を？

剛 俺が小学生の頃にさ、一緒にお風呂に入ったやん。

藍子 (素っ頓狂に) お風呂？

剛 入ったやん。

藍子 そうやったかね。

剛 入ったんよ。俺が小学生で、藍ちゃんが中学生、ぐらい。

藍子 覚えてないけど。

剛 俺はすっごい覚えとん。はっきりと。

藍子 ごめんね。

剛 そんなに、見た。膨らんだ、胸。

藍子 は？

剛 おっばい。

藍子 (二階を気にして) ちよ、声が、

剛 おっばい。

藍子 聞こえるって。

剛 そんなに、こっ胸が、こっで言う胸は、俺の胸よ、こっ胸が、ザワザワっちし

たん。生まれて初めて。そんな時。

藍子 あ、うん。

剛 藍ちゃんのおっぱい見て。

と、部屋の外に進がいる。

進 お前、何ち言いよんか。

剛 あ。

進 こんな日の高いうちから。(外を見て)丸聞こえぞ。

藍子 何か、ごめんね。

進 あ、いや。(剛に)俺やなくて、あっち。

進がトイレに入って行く。

二人が縁側の向こう側を見つめる。自転車の音。

藍子 ああ。こんにちは。

典香 (外から) 何の話をしよん。

縁側の外に萌が見える。その後から、自転車を止めた典香が入って来る。

剛 (萌と目が合い)そこ通ったん？

萌 . . .

剛 何か。

典香 おっぱいが何ち？

剛 どっから聞いたとったん。

典香 昼間っから、最低やね。

剛 それは昔の話やん。小学生の頃の、お風呂に入った時、

萌は部屋に上がって行き、

萌 じゃあ、何が今の話なん？

剛 今？

典香 萌ちゃん、

萌 今の話は何なん？

剛 今の話は . . . 今、この瞬間に終わったんよ。

萌 何が終わったん。

剛 何がっち。俺の中で、大切にしとったものが。

萌 何を大切にしとったん？

剛 だけ . . . もういいちゃ。ちょっと、あっち行っとけちゃ。

萌が持っていた、鶏肉を顔に押し当てる。

剛 ブツ。

藍子 ちよ、

もがく剛が、押し当てられた鶏肉を振り切り、

剛 くっせ。何かちや。

萌は、剛の顔にビンタを浴びせる。パーン。

典香 わー。

剛 いって。おい。

萌 さよなら。

剛 は？

藍子 ちよ、

典香 萌ちゃん？ねえ。

萌はそのまま縁側を出て行く。

剛 ちよ、待てちや。

剛は、萌が出て行った縁側へ走り出し、

剛 おい。お前が思っとうようなことやないんちや。

縁側から一步踏み出すが、履く靴がなく、

剛 痛い、痛い。(外に) ちよっと、待ってっちや。(典香に) 靴・・・

典香 入らんやろ。

典香は靴を脱ぎ、部屋に入ってくる。

剛 もう。(外に) 待ってって。

典香 捨てられるー。

剛は勝手口から出るため、部屋を出て行く。

剛(外から) 終わったんは、そういうんやなくて。のお。待ってよ。

家の外を走る、足音が聞こえる。

典香 (笑い) 和美ちゃんがおったら、大興奮やわ。

藍子 大丈夫なんかね？

典香 どうやろうね。はー。グズ、グズ。

藍子 何か・・・

典香 別に何もないんやろ？

藍子 え？

典香 剛と。  
藍子 うん。  
典香 ま、あいつに、そんな度胸があるとも思えんし。  
藍子 分かんけど。  
典香 エサをやらんと、死んじやうぞ、うちことよ。  
藍子 エサ。

藍子は落ちていいる肉を拾う。

典香 ああなって、分かることもあるうちことやない？危機感というか、少し距離を置く、みたいな。

藍子 ああ。

典香 いい機会よ。

藍子 肉。

典香 あっちの、ばあちゃんが絞めたんやろ。

藍子 絞めるうち、

典香 鶏。ころ。(首を絞める)

藍子 わー。

典香 わー、よね。うちも最初は、わーっと思った。

藍子 うん。

典香 何食わぬ顔で捌くんやけ。全部食うんに。

藍子 え、ああ。

典香 ああっち言われたら、恥ずかしいわ。

藍子 あ、ごめん。

典香 でも、ホント全部。廃鶏(はいけい) っち言っんやって。それ。

藍子 廃鶏？

典香 廃棄する鶏っち書いて。

藍子 廃鶏。

典香 卵を産まなくなった鶏。

藍子 そういうこと。

典香 卵を産んだら食べられ、産まなくなったら、自分が食べられ。ね、全部。

藍子 わー。

典香 そうなんよ。わー、なんよ。

藍子 わー。

典香 まあ、ばあちゃん達に言わせたら、それが感謝なんっち。

藍子 感謝。

典香 都合がいいけど、そうやないと生きて行けんのやしね。

藍子 そうやけど。

典香 食物連鎖。つながって、つながって。

藍子 つながって。

典香 今日のために、絞めてくれたんよ。そういう、もてなし方。

藍子 (肉の包まれた袋を見て) そういう。

典香 藍ちゃんは、嫌かも知れんけど、

藍子 え、嫌とか。別に。

典香 (笑っている)

トイレのドアが閉まる音がする。

典香 あー、進。それ、冷蔵庫に入れとって。

進は、部屋の前で立ち止まり、

進 何を騒ぎよったん？

典香 あんたに無縁の痴話喧嘩よ。

進 (舌打ち)

典香 順番に行かんと、悲しいね。

進 お前が言うな。

典香 うちは、彼氏おったもん。

進 過去形。

典香 過去よ。悪い？

進 別に。

と、向こうの部屋から、黒電話が鳴る。ジリリリリリ。

進 華ー。

藍子 買い物、行ったよ。

進 ああ。

典香 剛は萌ちゃんとか。

進 知っとるわ。

典香 うちらは出れんのやけ、早、出り。

進 ……

典香 あんたん家の電話やろ。そんなんも出来んで、

進 (舌打ち)

進が部屋の外へ消えて行く。

典香 あ、もうグズ。進。

と、黒電話の音が消える。電話の応答をする進。

進 (外から) もし、もし。

典香 出た。

藍子 うん。

典香 グズ言って、ごめんね。

藍子 進くん、そんなに。あれやったん？

典香 全然やったよ。

藍子 昨日も、普通に話してくれたけ。何か。

典香 え、そうなん？

藍子 普通か分からんけど。  
典香 二人が来て、こう（変化が）、あつたんかもね。  
藍子 私たち？  
典香 なんだかんた、他人やないんよ。いとこっち。あ、るっちゃんは？  
藍子 ああ、今、ちょっと出掛けとって。  
典香 そっか。じゃあ、先にやっところかな。  
藍子 お勤め。  
典香 そ、お勤め。

典香が縁側から、外へ出て行き、お勤めの準備をしている。  
藍子は手に持った、肉を見つめている。

藍子 ああ。  
典香 ん？  
藍子 それ、典ちゃんがおらんくなったら、どうするん？  
典香 これ？さあ、どうやろ。  
藍子 典ちゃんも、いつかおらんくなる、かも知れんやろ？  
典香 どうかね。そうかもね。  
藍子 そんな時。  
典香 誰かするんやない？  
藍子 誰かっち。  
典香 ここに残った、誰か。  
藍子 残った。  
典香 誰もおらんかったら、進だって電話に出るんやけ。  
藍子 もし、誰も残らんかったら？  
典香 そんな時は、この家が無くなる時なんやない？

部屋の外に、進が現れる。

典香 ああ。  
進 ……。  
典香 電話、誰やったん？和美ちゃんとか。  
進 華の、彼氏。  
典香 ああ、あの彼氏？  
進 昨日。何か言いよったやん。  
藍子 え？  
進 あの、結婚したら、みたいな。  
藍子 ああ、うん。  
典香 え、誰が？  
進 華。  
典香 え、うそ。華ちゃん？マジで？  
進 あれっち、その、そういう話？  
藍子 いや・・・まあ。あの、詳しく知らんけど。  
典香 えー、全然知らんかった。

進 結婚するん？あいつ。

と、そこに縁側から和美が入って来る。

和美 準備は進んどる？

典香 あ、和美ちゃん、いいとこに来た。

進 どこが。

和美 何？準備は？

典香 そこどころやないんっちゃ。

藍子 ちよ、

和美 え？何？何？

和美が部屋に入ってきて来る。

進 言うなちゃ。

典香 どうせ、分かることなんやけ。

和美 どしたん？

典香 華ちゃんがね、結婚するっち。

藍子 いや、まだ、

和美 何だ、それが。

典香 え？何、それ。

進 知つとつたん？

和美 まあ。

典香 え、何で？何で知つとん？

和美 相談というか。

典香 うち知らんかったんに？

和美 あんた、おしゃべりやけね。

典香 そんなこと、分からんけど。

和美 嘘ちや。経験値よ、経験値。良くも悪くも。

進 俺も知らんかったけど。

和美 それは、言いにくいこともあるやろ。うちだって、兄貴に相談とか、死んでもせんもん。

進 でも。

和美 そんなもんよ。

典香 そんなもんかもね。

和美 誰から聞いたん？え、藍ちゃん？

藍子 いや・・・

進 電話があつたん。彼氏から。挨拶に来たいっち。

和美 なるほどね。あっちも、焦って来とるっちわけか。困ったね。

典香 焦る？

和美 答えがもらえんで。

典香 え、じゃあ、まだ決まってるないんやん。

和美 そ。華の気持ちが決まってるないん。

典香 何で？

和美 まあ、何かあるんやろ。一步踏み出せん、何か。  
典香 何かっち。  
進 俺らのせい？  
和美 どうやろね。分からんけど。

と、勝手口から華の声が聞こえる。

華（外から） ただいまー。  
典香 わー。タイミング。

三人は進を見ている。

典香 よし、連れて来よう。  
進 ちよ、  
典香 （外に）おかえり。

典香が部屋の外へ出て行く。部屋の外で、華と典香の会話が小さく聞こえる。

和美 お節介やな。  
進 マジで。  
和美 まあ、でも、いいタイミングかもね。  
進 俺のタイミングが。  
和美 たまには、しっかりせな。  
進 いや。  
藍子 でも、そうなんと思う。  
進 え？  
和美 ね。よし、任せたけ、長男。

和美と藍子が部屋の外へ出て行く。  
立ち尽くしていた進が、ゆっくりと座る。

和美（外で） おかえり。  
華（外で） あら、もう帰って来たん？  
和美（外で） 速攻よ。  
華（外で） まだ、準備できてないんよ。  
藍子（外で） ううん。全然。  
典香（外で） うちらがよくけき、ちよっと、あっちの部屋に行っとって。  
華（外で） え、どういこと？  
典香（外で） いいけ、いいけ。

外で聞こえる会話の中、一度座った進だったが、落ち着かず、一度立ち上がり、別の場所に座りなおす。

華（外で） え、何？

そこに華が入って来る。

わ。

・・・

え、何しよん。

いや。あの・・・とりあえず、座ったら？

あ、うん。

華が進から少し離れた場所に座る。

(緊張に耐えかね) 何、これ。

うちが聞きたいんやけど。

そうやな。

ご飯、作らないけんけさ。

さつき、電話があつてさ。

え？

お前の、彼氏。

ああ。

うん。

そういうことか。

挨拶に来たいっち。

もう。勝手に。

勇気いったと思うぞ。電話。俺なら、できん。

そうやろうね。

何を悩むことがあるん。

別に。

そういうんはさ、なかなか巡って来んぞ。

いや。

俺とか、お前みたいなのは。

どういう意味？

そのまんまの意味よ。

分かつとうちや。

俺はこんなんやし、剛はあんなんやし、

どんなんなん。

親父もあんなんやっだし、お袋は、俺ら置いてっだし。

うん。

まあ、どうしよもない集まりやけど。

思ってないちゃ。

集まってもないけど。

そうやね。

そう考えたら、何か、希望が持てんわな。希望が。

・・・何の話なん。

何が言いたいんやろ、俺。

華 知らんし。

進 だけ、何か、それも分かるけどち、そういう。  
華 そういう。

進 俺らとか、気にせんでいいぞち、そういう。  
華 違うけ。

進 え？  
華 ずっと考えよったん。何か嫌な、何か。  
進 何かち？

華 親があんなんやったけど、結婚願望がないわけやないし、  
進 うん。

華 うちの男連中を見て、ダメやな、とは思っとうけど、  
進 思っとうんやん。

華 思っとうけど、彼氏に不満はないし、  
進 うん。

華 兄ちゃんとか、剛とか、何もせんけ、イラっともするし、  
進 ごめん、

華 なら、結婚して、家を出たらいいち思っうんやけど、  
進 うん。

華 うちはね、この家を出たくないん。  
進 家？

華 25年暮らした、この汚い家。  
進 全然分らんけど。

華 兄ちゃんには分らんやろうね。  
進 何か、それ。

華 だって、長男やけ。  
進 長男。

華 出らんでいいんやけ。

と、そこに瑠璃子が縁側に現れる。

瑠璃 あれ？あ、ごめん。

華 いや、全然いいよ。  
瑠璃 ううん。大丈夫、大丈夫。

と、瑠璃子が縁側から

華 何が、大丈夫なん。

部屋の外から、足音などが聞こえ、少しざわつく様子。

華 めっっちゃ、聞かれようよ。

華 そうやろうね。  
うん。

と、進は神棚からサイコロゲーム一式を手にする。

何しよん。

親父にね、一回、言ったことあるん。これ、止めてくれっち。

え、何、急に。

一回だけ。

いつ？

俺が二十歳になった時。親父に飲もうっち誘われた時。

全然、知らん。

無茶苦茶なくせに、そういうのはちゃんとしとんやんっち、妙におかしくてさ。

そうやね。

飲み始めから、親父は、すげえ上機嫌やって、だけ何か、俺も・・・

うん。

そんな時に、いい機会やと思って。もう歳なんやけ、この辺のおっさん達集めて、

馬鹿みたいに騒がんでくれっち。これ、止めてくれっち。言ったんよ。

そうなんやん。

何か、偉そうやけど。それこそ、長男として。

(笑って) 長男としてね。

そしたら。そうやなーっち。何か、今まで見たことない顔しとった。

どんな顔？

どんな顔やろ。

笑つとった？

うん。でも、何か、ちよつと寂しそうな、感じの顔。

今の、兄ちゃんみたいな顔？

そんな顔しとる？

うん。

そっか。

でも、結局止めんかったね。死ぬまで。

そんな顔して、ポーっと遠くを見よって、俺もさ、次の言葉が見つからんで、

何か、親父を見よって。

うん。

そしたら、親父がボソつと(サイコロを手にして)サイコロ3つあるけっち言

い出して。俺らが家を出る時に、一個ずつ渡しちやろうっち。

何、それ。

一個でもなくなったら、もう出来なくなるわっち。

進が、サイコロを一つだけ器に落とす。チロリン。

何、それ。

はぐらかされた、っち思っただけだね、

うん。

そんな時は思っただけだね。次の年に、死ぬけさ。

進が、サイコロを一つだけ器に落とす。チロリン。

華 そうやね。  
進 知っとったんか、知らなかったんか分からんけど、サイコロ渡さんまま。  
華 うん。

進 二十歳の俺に期待しとったんかも、知れんけど。  
華 全然やもんね。

進 期待する相手、間違っとうし。

華 うち、高校生やったし。

進 そうっっちゃ。急ぎ過ぎなんっっちゃ。

華 急がんでも、今のところ結果は一緒やけど。

進 まあ、今頃、親父もガツカリしとるやろうな。

華 こいつやなかったっち。

進 何で、ちよっとずつ、俺を攻めるん。

華 いい機会やけ。

進 (舌打ち)

華 一緒にお酒飲めて、嬉しかったやろうね。

進 どうやる。

華 上機嫌なお父さんの顔が、目に浮かぶ。

進 進は手に残っている、一つのサイコロを差し出す。

華 サイコロを一つ、華が受け取る。

進 縁起が良いとは言えんけど。

華 反面教師よ。

進 そうやな。

華 うん。

進 と、縁側の外から剛の声が聞こえる。

剛 (外から) あ、何？ゲームしょん。二人だけ、ずっこいし。  
進 しとらんわ。

剛 剛が縁側から部屋に入って来る。

進 ウソやん。

剛 あー、不安になって来た。

剛 何が？

剛の後ろについて来た萌が、縁側のそばまで来ている。  
と、部屋の襖が開き、そこにいた四人の姿が見える。

典香 あー、もう。

剛 え？

典香 雰囲気、台無し。

和美 さすが末っ子やね。  
剛 和美ちゃんもやん。  
和美 あーいえば、こーいう。  
剛 意味分からん。  
典香 (萌に) 落ち着いた？  
萌 すいません。  
典香 あいつが悪いんやけ。  
剛 うるせえ。  
典香 事実やろ。  
藍子 ごめんね。  
華 いいよ、知っとったし。  
瑠璃 おめでどう。  
華 ありがとう、なんかな。  
剛 どういうこと？

進はゲーム一式を、神棚に置いている。

進 暇人、ばっかり。  
和美 心配しとったんやろ。  
進 お節介、ばっかり。  
和美 お節介した甲斐があったわ。

二拍手。ほんの一瞬だけ、辺りが静かになる。

華 さ、準備しようかね。  
典香 お、やっとなやね。  
華 するっち言いよったくせに。  
典香 やる、やる。一緒に。  
藍子 これ。

藍子は萌に肉を渡す。

萌 ありがとう。  
藍子 ううん。  
和美 歓迎会アードお祝いやね。

華と和美が部屋を出て行く。

剛 何の祝い？  
典香 突っ立っとらんで、手伝い。  
進 何で。  
典香 自分のことは自分です。  
進 (舌打ち)

典香が部屋を出て行く。

進  
剛。

進が部屋を出て行く。

萌が部屋に入って来て、

剛 全然分からんけど。

萌 行くよ。

剛 え？

萌 使ってもらわんと。

萌が部屋を出て行く。

剛 ちょ、待ってっちゃ。

剛が部屋を出て行く。

瑠璃 何か、お祭りみたい。

藍子 騒がしい。

瑠璃 結婚式をしよった家やけね。

藍子 そうやね。

瑠璃 さすがに華ちゃんはせんやろうけど。

藍子 今日は、お祝いやね。

瑠璃 うん。

藍子 (手を臭い、笑って) 生臭い。

瑠璃 ちよっと、臭わせてん。

藍子 何で。

瑠璃 いいやん。

藍子 臭いよ。

藍子は手を瑠璃子に向け、瑠璃子はそれを臭う。

瑠璃 くさ。

藍子 言ったやん。

瑠璃 血の臭い。

藍子 そうやね。

瑠璃 手、洗い。

藍子 うん。

藍子が縁側から外へ出て行く。

瑠璃 人ん家の臭いはせんくなったん？

藍子 せんくなった。慣れるもんやね。

瑠璃 私も。

藍子 (外から) ん？

瑠璃 甘い感じの、あの匂い、せんくなった。

藍子 (外から) そうなんやん。

部屋の向こう側では、ゴチャゴチャとした会話が聞こえ、  
外からは、水の音が聞こえる。ジャー。

瑠璃 明日。家に帰ろうか。

藍子 (外から) うん。

瑠璃 ここ、私たちの家やないしね。

藍子 (外から) うん。

瑠璃 お母さんが、家を出る前に住んどった家。

藍子 (外から) うん。私たちには。

瑠璃 お父さんも心配しとるね。

藍子 (外から) しとるよ。

瑠璃 ね。

水の水音が消え、藍子の姿が見える。

ねえ、石洗う？

瑠璃 石？

藍子 典ちゃん、途中みたいやけ。

瑠璃 そうなんやん。(笑って) やっちらうかね。

藍子 うん。

瑠璃 スリッパ借ります。

瑠璃 瑠璃子は縁側から外へ出て行く。

取りに行きよ。

瑠璃 (外から) 面倒臭いやん。

藍子 (外から) 姉ちゃん、そういうことがあるよね。

外からは、二人の笑い声と水の水音が聞こえる。

ザバン。

4.

ゲームをしている進と剛。

剛 全然、二個でもできるやん。  
進 そうやな。

剛 止める気、なかったんやない？  
進 そんな気がしてきた。

そこに典香が入って来る。

典香 よいしょ。

進 ああ。

剛 お疲れ様。

二人は、典香を気にしながらも、ゲームを続ける。

典香 好きやねー。それ、

進 別に。

典香 昼間っから。

二人 ……。

典香 たまの休みやろ。

進 休みやけよ。

典香 ま、別にいいけど。剛も。

剛 え、何？

典香 遊びに連れてっちららな。萌ちゃん。

剛 あ、やべ。

典香 え？

剛 忘れよった。やべ。

剛は立ち上がり、

典香 どこ行くん？

剛 ちよっと。

典香 お、デート？

剛 これ、このままでいい？

進 (舌打ち) 早、行け。

剛 よろしくね。いってきます。

典香 気をつけてね。

剛が部屋の外へ出て行く。

進は器からサイコロを取り出し、手に取る。

典香 それ、片付けときよ。誰もおらんのやけ。

進 分かっとうちや。

典香 うちも、お勤め、やろうかね。

進 のお。一緒にゲームせん？

典香 サイコロ、なくなったんやないん？

進 2個あるうちは、やれそう。

典香 じゃあ、さっさと1個なくさなね。

進 ゲーム出来なくなるわ。  
典香 親父が、あの世で泣きよるわ。  
進 しようぜ。  
典香 暇なら、これ、一緒にする？  
進 ・・・やるわ。  
典香 え？  
進 何か？  
典香 いや。  
進 一緒にせん、っち言ったやろうが。  
典香 言ったけど。  
進 終わったら、ゲーム付き合えよ。  
典香 しゃーないね。  
進 よし。

進は、手に握ったサイコロを器に投げ入れる。チンチロリン。

進が縁側から外へ出て行く。  
外で水をかける音が、誰もいなくなった部屋に響く。  
ザバン。

おわり